

東海日本語ネットワーク (TNN) 2017 年度活動報告

東海日本語ネットワーク 2017 年度活動概要

（1）「日本語ボランティアシンポジウム 2017」の開催

わからない日本語、つかってない？

－外国人に伝わる「やさしい日本語」を考えよう－

（名古屋国際センター共主催事業）を 12 月 2 日（土）に開催した。

（2）「日本語ボランティア研修 2017」の開催

「日本語ボランティア研修 2017～開かれた地域社会をめざして～」を年間 9 回開催した。（名古屋国際センター共催事業）

（3）第 24 回総会の開催

（4）月例会の開催

（8 月と 12 月を除く毎月第 2 土曜日に例会を開催）

（5）東海日本語ネットワークニュースの発行

2017 年 7 月、11 月、2018 年 3 月に会報 70 号～72 号を発行した。

上記（1）～（5）の記録を以下に収録する。

日本語ボランティア研修2017

「開かれた地域社会をめざして」記録

2017年度開催一覧

4月	お話を聞く会：新しい基礎日本語教育の内容と方法 —N E Jを活用した教育の実践— 講師：西口 光一（大阪大学国際教育交流センター 教授）
5月	お話を聞く会：やさしい日本語で地域が変わる 講師：吉開 章（電通／やさしい日本語ツーリズム研究会 事務局長）
6月	交流会：つながっているからできること —みんなで考えよう！教室活動とネットワーク— ファシリテーター：酒井美賀（東海日本語ネットワーク 代表）
7月	お話を聞く会：いっしょに考えよう！これからの日本語教室 —愛知県の日本語教育施策を参考に— 講師：大橋 充人（愛知県多文化共生推進室室長補佐／地域日本語教育コーディネーター）
9月	お話を聞く会：自己表現とライフプラン ドキュメンタリー映画「Journey to be Continued（続きゆく旅）」 講師：各務 真弓（N P O 法人可児市国際交流協会 事務局長）
10月	お話を聞く会：ポートフォリオと学習記録簿 講師：青木 直子（大阪大学 教授）・奥 優伽子（神戸定住外国人支援センター）
1月	お話を聞く会：発達障がいがある外国につながる子どもとその家族に対する支援 —子どもの得意を活かした学び方— 講師：清長 豊（N P O 法人アジャスト代表理事/療育指導員 療育コンサルタント）
2月	お話を聞く会：日本語ボランティアってなに？—これまでの歩みから考える— 講師：松井 孝浩（横浜市国際交流協会、鶴見国際交流ラウンジ 館長）
3月	お話を聞く会：日本語能力試験N 3合格のための語彙指導 —『新完全マスター語彙 日本語能力試験N 3』を使って— 講師：伊能裕晃（東京学芸大学 非常勤講師）

日本語ボランティア研修 2017 第1回 お話を聞く会

日時：2017年4月8日(土) 13:30-15:00 場所：名古屋国際センター 5F 第1会議室

題目：「新しい基礎日本語教育の内容と方法—N E Jを活用した教育の実践—」

講師：西口光一（大阪大学 国際教育交流センター）

司会：早川泰司 記録：金地和代 参加人数：51名

1. はじめに

- (1) 基本姿勢：「自分が学習者だったら…」を実行する。
- (2) 言語教育の企画の基本：「できるようになること」を理屈や抽象（文型・文法事項）ではなく、言語活動として設定する。
- (3) 日本語の学習と習得の原理：「人のフリ見て、我がフリ『作れ』」！
- (4) 言語教育で扱う言語活動の領域
 - ①機能的実用的コミュニケーションではなく、社交的交歓的コミュニケーション、内容のあるやり取りやまとまった話
 - ②私的な話し方ではなく、公的な話し方

2. 自己表現活動中心の基礎日本語教育の企画とリソース

『N E J : A New Approach to Elementary Japanese—テーマで学ぶ基礎日本語』

- (1) プログラムは作業工程表、ナラティブはユニットの目標となる精密なモザイク画
- (2) ①目標の言語活動の見本。②当該の言語活動を運営することばのジャンルで実現されている。③学習者は自身のナラティブを構成するための言葉遣いを盗み取れる。④企画の副トラック方針にもとづいて文法はコントロールされている。⑤テーマを巧みに選択しているのでどのナラティブも自然さは損なわれない。

3. N E J の特長

- ①留学生・一般人対象
- ②マスター・テクスト・アプローチ
- ③文型・文法事項を系統的に、語彙を体系的に
- ④テーマの自己表現能力×文型・文法事項と語彙=日本語の基礎力
- ⑤各国語版がある。（英語版、中国語版、ベトナム語版）

4. 実践に向けて

- ・日本語習得支援のもう一つの側面。ことばを涵養すること↔言葉の養分をたっぷり提供すること=滋養的言語活動従事 (nourishing language engagement)
従来の4技能という見方や、受容活動と産出活動という見方は、固体主義的で伝達主義的である。こうした見方は第二言語習得の社会言語心理的プロセスを歪曲し、その重要なプロセスを覆い隠してしまうので、棄却されなければならない。

5. 授業の流れ

- ①マスター・テクストの朗唱練習をする
- ②マスター・テクストの質疑応答練習をする
- ③文法を中心としてマスター・テクストの復習をする、漢字の学習をする
- ④マスター・テクストを参考にしてエッセイ（作文）を書く→発表する

質疑応答

Q：この本の使用にあたって、どのくらいの人から使えるか？

A：初級なのでどんな人でも入りやすく、学習者の日本語がのびる。

日本語ボランティア研修 2017 第2回 お話を聞く会

日時：2017年5月13日(土)13:30-15:00 場所：名古屋国際センター 3F第2研修室

題目：「やさしい日本語で地域が変わる」

講師：吉開 章（株式会社電通/やさしい日本語ツーリズム研究会 事務局長）

司会：金地和代 記録：浜原弘也 参加人数：56名

1. やさしい日本語にはゆめがある！

- (1) 来日観光客は英語話者が40%強、その他日本語で可という人が多い。
- (2) アジアからの観光客が80%で、英語でなく、わかりやすい日本語なら通じる。
- (3) 日本語で話したい外国人観光客は想像以上に多いので、「やさしい日本語」で堂々とおもてなししよう、地方再生にも活かせると考え、電通で研究会を立ち上げた。
- (4) わかりやすい日本語の要領
 - ①短く言う ②はっきり言う ③最後まで言う ④「～です」「～ます」で言う
 - ⑤カタカナ言葉を控える ⑥敬語を使わない

2. 2017年活動テーマ 「一般の方へのやさしい日本語普及による、社会変革」促進

- (1)課題：どのように「やさしい日本語」の価値を届けるか、どのように外国人との向き合い方を変えていくか。
- (2)課題解決への取り組み：人を動かすには大義だけでなく、動機も必要と考え「観光客おもてなし」「国際交流」という動機付けで普及活動を始めた。
- (3)動機付け①ツーリズム（観光客おもてなし）：福岡市内の日本語学校生徒の卒業記念旅行で柳川市の川下りを企画。外国人学習者が自分から挨拶、日本語を使う実態に手ごたえを感じ、日本人側への「やさしい日本語」勉強会開催。川下りの船頭さんや料理屋の人などが実践したところ、言葉と気持ちが通じ外国人にも好評だった。
- (4)動機付け②エンターテインメント(国際交流)：英語落語で活躍の桂かい枝さんが、柳川高校への留学生60人と柳川市民60人に「やさしい日本語落語」を披露。
 - ・結果…留学生よく反応=日本語通じている 終わってからの交流会、市民の方から積極的に留学生と交流
 - ・わかったこと…理解促進には見せるのが一番！

3. 本日の参加者同士で議論

やさしい日本語が普及すると地域はどう変わるか？私たちができることは何か？

4. 吉開さんのまとめ

- ・日本に来る観光客は日本語を話したいので本日紹介した「やさしい日本語でおもてなし」ワッペンを胸につけ皆さんから実践してほしい。
- ・美容師やバスガイドなど密着時間の長い人が実践してくれると効果が上がる。
- ・老若男女が遠慮せず声かけしてくれれば社会は変えられる。地域の過疎化、高齢化と嘆かず、観光客にまず挨拶の一声を→これが地方再生にもつながる。

日本語ボランティア研修 2017 第3回 交流会

日時：2017年6月10日(土)14:10-16:00 場所：名古屋国際センター 5F 第1会議室

題目：「つながっているからできること」

～みんなで考えよう！日本語教室活動とネットワーク～

ファシリテーター：酒井美賀 記録：山本剛 参加人数：36名

1. 交流会の目的・進行

各教室で困っていることを共有し、解決策を一緒に考える。

2. グループディスカッション

(1) ボランティア募集 (6人)

①ボランティア不足の理由：学習者が増加。教室開催の時間帯が仕事と重なる。

②募集方法：日本語教師養成学校の掲示板、ボラミミ募集に載せる。HP。

③他の情報共有：ボランティアに入りたいが検索の仕方、探し方がわからない。

(2) 世代交代 (6人)

①過去に行った活動で成功したことを継承する傾向がある。

②新しいボランティアが入ってこないことと、入っても長続きしないことは別問題。

③年齢が高い人は「教える」ことに興味があるが、若い人は「交流」目的が多い。

④学生の掘り起こしをするために、地元にある大学に宣伝する。

(3) 悩み事 (9人)

①ボランティアの人数が多く(80人位)なり、理念や方法にバラツキが出てきた。

②高齢のボランティアは受け入れる？→その人が楽しいなら受け入れた方がいい。

③学習者が急増し、学習者30人に対してボラ15人→クラス形式にしたらどうか。

(4) 教室改革 (5人)

〈各教室の問題〉

①教室間の学習指導のバラツキ。ボランティアの考え方の統一がなされていない。

②技能実習生と定住でいる外国人の人達と共に、勉強できる教室作りをしたい。

③発言権の強い古参のボランティアが決定の流れを作っている。

〈TNNを介して問題点を解決→すぐできること〉

時代に即した考え方を知ってもらうために、TNN研修に各団体から毎回違う人を順番に派遣、いろんな人に話を聞いてもらって意識改革をする。

(5) フリートーク (9人)

〈TNNに入ると良い理由〉

①他の教室と交流でき、情報を得られ、いろいろ学ぶことができる。

②研修に参加し、教室活動に役立てる。

③個人で参加しても、面白い出会いがある。

④団体で加入していると、何人来ても研修が無料で受けられる。

日本語ボランティア研修 2017 第4回お話を聞く会

日時：2017年7月8日 13:30-15:00 場所：名古屋国際センター 3F第2研修室
題目：いっしょに考えよう！これから日本語教室～愛知県の日本語施策を参考に～
講師：大橋充人（愛知県多文化共生推進室室長補佐・地域日本語教育コーディネーター）

司会：山本剛 記録：藤本寿子 参加人数：40名

1. 愛知県における日本語教育施策

H25年度「愛知県多文化共生社会に向けた地域における日本語教育推進のあり方」策定→H26年度「愛知県日本語教育推進会議」開催。「あいち地域日本語教室ハンドブック」作成→H27年度「あいち外国人の日本語教育推進会議」開催。

2. 地域における日本語教室の意義

外国人県民中には地域社会に参加し活動したくても、ことばや文化、習慣の違いが壁となってできない人が数多くいる。また同様に壁を感じることで外国人県民に苦手意識を持つ日本人県民も少なくない。地域における日本語教育はこの壁をなくす一つの鍵である。

3. 愛知県の役割

県内市町村、国際交流協会、日本語教室、日本語教育機関、日本語教師養成機関、企業、県民などが効果的に連携・協働できるよう全県をあげた取組を行う。市町村や交流協会の職員などに「地域における日本語教育」に関する情報提供や研修を行う。「やさしい日本語」の普及に努める。

4. 市町村の役割として求められること・期待されること

日本の文化、習慣などに関する学習の機会や地域日本語教室に関する情報提供。ニーズに応じて日本語教室の設置・運営をする。教室が日本人住民と外国人住民の出会いの場、行政と外国人コミュニティの接点として機能するよう、更に学校との連携が進むよう支援する。「地域における日本語教育」の指導者を養成する。

5. 市町村国際交流協会の役割として期待されること

地域の日本語教室と外国人県民、コミュニティとの架け橋になること。情報提供や広報などの活動支援、会場の無償提供や割引制度の実施、日本語教師やボランティアの養成。

6. 県の施策（支援基金）

日本語学習支援基金（教室等へ助成）、外国人児童生徒日本語教育支援補助金（NPOへ補助金）、外国人児童生徒日本語指導員育成事業（AIAへ補助金）、外国人児童生徒指導関係者共同研修事業（AIAへ補助金）

7. 今後のアイデア

地域の日本語教室と連携した初期日本語教育。青少年のための日本語教室。就労につながる日本語等ニーズ調査。日本語教室における技能実習生の実態調査等。日本語教育推進会議（日本語教室推進部会）

日本語ボランティア研修 2017 第5回 お話を聞く会

日時：2017年9月9日 13:30-15:15 場所：名古屋国際センター 3F 第2研修室

題目：自己表現とライフプラン ドキュメンタリー映画

「Journey to be Continued (続きゆく旅)」

講師：各務 真弓 (NPO法人可児市国際交流協会 事務局長)

司会：藤本寿子 記録：鈴木勝代 参加人数：31名

1. 講師紹介

2. 上映前に

(1) 映画を撮るに至る経緯

①協会では教室に来る子どもたちの勉強のモチベーションが上がらないので、演劇やアートを取り入れてきた。「辛いから笑う」という声から、本音を出せるようになるかと考えた。

②映画を見るだけだと、言葉だけが独り歩きすると困るので、見た人から感想をもらいたい。上映（1時間）

3. 据足説明

(1)撮影隊は可児市に1か月滞在し、ずっと見てもらった。

(2)先生と生徒の話し合い場面は意図して撮ったのではなく、たまたま生徒の反乱があり、完成後に入っていたことを知った。学校のシーンはカットされた。

4. 参加者からの感想、質疑応答

Q：文化の違い、日本的な謙虚を得たことはいいかどうか。

Q：心の中を話している。教える側の指導法に疑問を持った。文法の違い？今はコミュニケーション中心。いろいろ考えさせられた。

Q：なぜ作ったか。

A：反抗期の子たちは本当の気持ちを親にも友達にも伝えられない。「困っている時にニコニコしてしまう」誰か本当の自分を見てほしいのではないか。それを映像化できた。初めの思いと違って、手法、素材など岩井先生にお任せ。音楽もオリジナルでつけてもらった。可児市の支援もあった。いろんな立場の人が見ると感じ方も違うことがわかった。

Q：絵はどうなった？

A：消してしまった。一日に描く絵は3枚くらいしか撮れなかった。初めは子どもが撮影する予定が変わったので、助成金が半分に減ってしまい、可児市に頼んだ。最後は監督がグリーンに塗った（緑=エスペランサ=希望）

Q：絵のテーマは？

A：絵でなくてもよかった。絵は自分のことを表現していた。皆、躊躇なくかいていた。全部の絵が採用されたわけではない。

Q：こんな研修は珍しい。一緒に見られてよかったです。若い人の話がわかつた。印象的なのは最後の希望の緑色。

A：「仕様がない」で済ます子もいる。反抗期の子が苦しいところを乗り越えてメッセージを残してくれてうれしい。今悩んでいる子たちが参考にしてくれるといい。出ている子の親が見てないので、見てほしい。自分たちのために働いているのをわかっているから子どもは親を悪く言わない。自分の夢を叶えてほしい。家族のことをかくのはいい。若い人たちの考え方から学ぶことが多い。

日本語ボランティア研修 2017 第6回 お話を聞く会

日時：2017年10月14日 13:30-15:00 場所：名古屋国際センター 5F 第1会議室

題目：ポートフォリオと学習記録簿

講師：青木直子（大阪大学 国際教育交流センター）

奥優伽子（神戸定住外国人支援センター）

司会：岡部真理子 記録：森嶋計詞 参加人数：51名

1. 実践の概要

(1) [青木さん]

①学習者のニーズがボランティアに伝わっていないと感じ作成を思いたった。

・学校での勉強の仕方に慣れて、自分から希望を言うことを知らない。

・無料なので遠慮して希望を言わないなどの課題に対処したいと思った。

②多くのポートフォリオは表になっている事で難しく感じられる。

→阪大は学生用・研究者用…とcan doを分けて、各紙1枚にまとめている。

③学習の仕方を見つけ、動機付けのために学習者同士が情報交換する時間は必要。

(2) [奥さん]

①KFC日本語教室の紹介→学習者は45名。越・中・印より、水曜・火曜・日曜に開催。

②2013年「日本語学習記録簿」の使用開始。学習者の実態把握と学習計画立案の為。

③学習記録簿の利用からポートフォリオへ学習者がいつどのように学習しているかを記録してみようというところから始めた。

・第1段階：「記録する」ことの習慣化。

・第2段階：「意識する」自分の学習スタイル。

・学習内容を把握、できる事を徐々に。

・第3段階：「知識を増やす」学習方法の知識を増やす。

・第4段階：「意識して実行する」自分の学習スタイル・学習内容を決める。

・第5段階：決めた事を実行。3年間で作り上げていった。

2. 振り返り

(1) 学習者に書いてもらうための工夫。

教室のシステムとして書いてもらう。書く事の主旨を伝える。感想を聞く。記録について振り返る時間を作る。ポートフォリオに記号・絵、母語・ローマ字を使う。

(2) 課題

①支援者の理解不足

②支援者側が活用させる力不足

(a) 記録簿を読み取り学習方法の問題点を見つけられる力

(b) 学習方法を知って目標達成のために活用出来る力

(c) 相手に合った学習方法を紹介・実践できる力

3. まとめ

(1) 学習活動の可視化、中長期の記録として積み重ねる事が活用の第一歩目となる。

(2) 自分の活動を振り返る事により、学習を主導していく力、自立学習できる力がつく。

(3) やってみないとわからないことがある。やりながら考えればよい。

日本語ボランティア研修 2017 第7回 お話を聞く会

日時：2018年1月13日 13:30-15:00 場所：名古屋国際センター 3F 第2研修室

題目：発達障がいがある外国につながる子どもとその家族に対する支援

～子どもの得意を活かした学び方～

講師：清長豊（NPO法人アジャスト代表理事/療育指導員・療育コンサルタント）

司会：浜原弘也 記録：金地和代 参加人数：30名

1. 特別支援教育とは

- (1) 障害ある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う。
- (2) 通常の教育課程では、十分な学習効果が望めない子ども達（移民やギフテッドの子ども達も含む）への支援を行うもの。
- (3) 発達障がいのある子どもは、小中学校の通常の学級で学んでいたり通常の学級に在籍しながら個別的な支援を受ける通級による指導を受けたりすることが多い。

2. 発達障がいとは？

- (1) A D H D（注意欠陥多動性障害）：年齢や発達に不釣り合いな注意力、又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたす。
- (2) 自閉症スペクトラム：他人との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものに拘ることを特徴とする。知的発達の遅れを伴わない。
- (3) L D（学習障害）：全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する能力のうち特定のものの習得と使用に困難を示す。環境的な要因が直接の原因となるものではない。

3. 発達障がいがある子どもへの理解と対応

- (1) 問題行動について、わからなかつたら、子どもに聞いてみる。
→子どもへの信頼関係。興味のあることを共有し、大人が寄り添うことが大事。
- (2) 伝え方にひと工夫（穏やかな声で、子どもに近づいて、ゆっくり話して）
→指示は短く、簡潔に。伝わっているかの確認が必要。
- (3) 興味からつなげ、広げる。いろいろなツール（キーボード等）を活用する。

4. 多文化共生と発達障害児支援の共通点

お互いの価値観を理解し、お互いを尊重し共存すること、「変える」ではなく肯定して認めてあげること。

5. まとめ

子どもの相談ができる場所が少ない。保護者にも大きな負担がある。長期的な見通しを保護者と共有することが大事。長期的な視点を持たない学校が多く、先生が子どものことを勝手に決めてしまうことがある。「将来」も笑えるように、子どもと一緒に問題を共有して考えて続けていく。親も支えていくことがとても大切。

質疑応答

Q：母語との関係はどうなっているのか。

A：言葉の問題や文化の違いなど状況がとても複雑である。母語で教えてもらったやり方と違うので、自分が否定されているように思って、小さくなる子どももいる。自己肯定感をそこなわないように、他者信頼感（頼っていい）を伝える。

日本語ボランティア研修 2017 第8回 お話を聞く会

日時：2018年2月10日 13:30～15:00 場所：名古屋国際センター 3F 第2研修室

題目：日本語ボランティアってなに？

～これまでの歩みから考える～

講師：松井孝浩(横浜市国際交流協会、鶴見国際交流ラウンジ)

司会：金地和代 記録：山田美砂子 参加人数：40名

1. なぜ、何のために日本語ボランティアをしているのか。

- ・自分なりの理由を探る。

→日本語ボランティアとして「こうあるべき」というものはないはず。しかし他者と建設的な議論をするためには「自分がなぜ日本語ボランティアをしているのか」という理由は明確にしておいた方がよい。遭遇する問題に対する解決策を考える上で、「理由」を意識しておく必要があるのではないか。

2. 多文化共生とは何か。どのような状態のことを指すのかについて考える。

- ・経済的に安定している。

→国籍、文化、言語によって就労制限を受けず、そのための日本語学習、教科学習支援を快く受けられる。

- ・自分の文化を隠さなくてもよい。

→どんな国籍や歴史を持っていても、自分のルーツの文化を全面的に出せること。

- ・母語・母文化の継承が機能している。

→母語・母文化を持ちつつ、他の言語・文化への相互アクセス化が可能な状態。

- ・複言語・複文化

→一人の中に、複数の言語と文化があり、それを持って他者と関わっていくことが大切である。異質なものに対して想像力や感受性を働かせ、その人本来の個性が評価される社会が理想的なのではないか。

3. 日本語ボランティアとは何か。何をしたらいいのか、どのようにしたらいいのか。

- ・自分の教育観・理念などの根拠を明確に伝えられるようにすることは、ボランティア同士を円滑にするのではないか。

・日本語ボランティアは日本人と外国人コミュニティをつなぐ媒介役ではあるが、勉強する人の時間や環境を考え、生身の人間を教えていることを忘れずに独善的にならないよう、日本語を伝えることが良いと思われる。日本語指導には万能教材・教授法がないことを、念頭に置いて教えることが大切である。

- ・日本語ボランティア活動を支える3要素は、勉強する人の経験・教室や生活の環境・どうやって活動するか。

4. 話題提供

- ・あなたの教室で日本語を勉強している人から JLPT の指導をしてほしいと頼まれました。あなたはどうしますか？

意見

- ・日本語ボランティアをやめてしまった理由または長く続けて行く秘訣は何か？

→お互いに学べることも多く、また帰国時に感謝の言葉をもらうことで、モチベーションを維持し続けられている。ボランティア同士仲間がたくさんいる。人の話を聞かず謙虚な気持ちがない人が脱落していく傾向にあるのではないか。

→教室そのものが多文化共生をしている。その教室の趣旨を理解してもらう。

東海日本語ネットワーク 主催

(公財)名古屋国際センター 共催

日本語ボランティア研修 2017～開かれた地域社会をめざして～

第5回 お話を聞く会

自己表現とライフプラン

ドキュメンタリー映画

「Journey to be Continued (続きゆく旅)」



講師：各務 真弓（NPO 法人可児市国際交流協会 事務局長）

来日間もない思春期の子どもたちの課題として、自己表現とライフプランがいつもあった。高校につなぐ、学びのモチベーションを維持するための課題でもある。私たちは、言葉を超えた表現法として、演劇ワークショップに取組み、若すぎる妊娠出産については、ライフプランとしての性教育ワークショップのプログラムを作り実践してきた。そして、多様で、複雑な家庭環境の彼らと向き合い、自分の未来を考えるきっかけ作りとして、可児の今「子どもたちの今」を記録として切り取りたかった。そして、ドキュメンタリー映画が出来上がった。監督岩井成昭氏の仕掛けた、アートによる自己表現。母国での経験や学校、家庭での葛藤、そして未来。さまざま抱えながら、未来を見つめる彼らのメッセージを、皆さんはどう受け止めるでしょうか？支援者としてどう向き合うか、考えるきっかけになれば幸甚です。

日 時 : 2017年9月9日(土) 午後1時30分～午後3時00分
場 所 : 名古屋国際センター 3階 第2研修室
（名古屋駅より徒歩7分 地下鉄桜通線「国際センター」下車すぐ）
対 象 : 日本語ボランティアおよびその活動に興味のある方
定 員 : 50名
参 加 費 : 東海日本語ネットワーク会員 無料 ／ 一般 500円
申 し 込 み : 不要
質 問 受 付 : 講師へのご質問は、一ヶ月前までに下記 URL からお送りください。
時間の都合等により全てのご質問にはお答えできない場合があります
<http://tnnjp.com/form01.html>
問い合わせ先 : 名古屋国際センター交流協力課
TEL 052-581-5689 FAX 052-581-5629

《次回予告》 2017年度 お話を聞く会 10月14日(土) 13:30-15:00

テーマ：ポートフォリオと学習記録簿

講師：青木直子（大阪大学）・奥優伽子（神戸定住外国人支援センター）

★「東海日本語ネットワーク（TNN）」は日本語ボランティアの連絡組織です。主に、愛知・三重・岐阜・静岡の各県で活動を展開しているボランティアグループとボランティア個人が会員になっています。★この事業はTNNが、名古屋市の指定管理を受けているNICとの共催で行っています。★TNNでは、昨年度に続き、名古屋国際センター(NIC)の共催を得て、一般の方々にも参加していただける「日本語ボランティア研修 2017 開かれた地域社会をめざして」を開催します。★現在、ボランティアとして活動している方、これから関わろうと考えている方を対象に、広く日本語ボランティア活動に関する学習・交流の場を提供し、外国人住民と共生する地域社会のあり方を考えていきたいと思います。★8月と、12月に開催される「日本語ボランティアシンポジウム」とその準備の11月を除き、毎月行います。

⑧本事業は、名古屋市の指定管理事業です。

東海日本語ネットワーク 第24回 総会 記録

日時：2017年6月10日（土）13:30-14:00

会場：名古屋国際センター5階

司会：浜原弘也

第23回総会において資料1～5に基づいた以下の議案が承認されたことをご報告します。

1. 2016年度活動報告（資料1）
2. 2016年度会計報告、監査報告（資料2）
3. 2016年度協議委員・役員選出（資料3）
4. 2016年度活動計画（資料4）
5. 2016年度予算案（資料5）

[報告事項]

- (1) 資料1にもとづき以下の報告が承認された。
 - ・活動全般（報告者：酒井）
 - ・研修会報告（報告者：鈴木）
 - ・シンポジウム報告（報告者：浜原）
 - ・会報（報告者：伊藤）
- (2) 資料2にもとづき会計報告ならびに監査報告が承認された。
 - ・会計報告（報告者：金地）
 - ・会計監査報告（報告者：岡部）
- (3) 資料3にもとづいて協議委員・役員が選出された。
- (4) 資料4にもとづいて活動計画が承認された。
- (5) 資料5にもとづいて予算案が承認された。

本報告書では、以下に、資料2、資料3、資料5を載せます。

総会記録

資料 2

東海日本語ネットワーク 2017年度総会

2016年度 会計報告 監査報告

収入		支出	
前年度繰越	¥681,462	通信費	¥47,218
団体会費 (5,000×46)	¥230,000	事務、消耗品	¥22,322
個人会費 (3,000×44)	¥132,000	シンポジウム	¥34,056
日本語ボランティア研修 参加費 (500×102)	¥51,000	日本語ボランティア研修 講師謝礼、交通費 (9回分)	¥182,000
17年度会費	¥3,000	TNN活動報告書作成費	¥152,000
前年度会費未回収分後納 (15年度会費)	¥31,500	会報原稿謝礼金等	¥13,000
利息	¥6	セミナー等派遣交通費	¥19,020
寄付	¥100	ホームページ管理費	¥4,946
		会議費	¥5,163
		来期繰越	¥649,343
	¥1,129,068		¥1,129,068

会計 金地和代 

監査の結果 上記のとおり間違이ありません

会計監査 田部 真理子 

資料3 2017年度 協議員・役員

代表：酒井 美賀
 副代表：米勢 治子
 書記：藤本 寿子（メール）
 会計：金地 和代
 会計監査：岡部 真理子
 総務：浜原 弘也（事務局長）、稻垣 一雄、白石 真理、早川 泰司
 研修：鈴木 勝代、土井 佳彦
 郵便：茶谷 きよ子、酒井 美賀（代表兼務）
 会報委員：尾崎 明人、山田 美砂子、伊藤 典子、松本 一子、宮崎 智美
 ホームページ委員：森嶋 計詞
 協議員：茶谷 きよ子、山本 剛
 シンポジウム委員長：浜原 弘也（事務局長兼務）

資料5 2017年度予算案

2017年度予算（案）

収入		支出	
前年度繰越	¥649,343	通信費	¥50,000
団体会費 (5,000×50)	¥250,000	事務、消耗品	¥20,000
個人会費 (3,000×50)	¥150,000	シンポジウム	¥40,000
日本語ボランティア研修 参加費 (500×100名)	¥50,000	日本語ボランティア研修 講師謝礼、交通費(9回分)	¥200,000
		TNN活動報告書作成費	¥160,000
		会報原稿謝礼金	¥10,000
		セミナー等派遣交通費	¥20,000
		ホームページ管理費	¥15,000
		会議費	¥10,000
		来期繰越	¥574,343
	¥1,099,343		¥1,099,343

2017 年度 TNN 月例会記録

4月例会 2017年4月8日(土)

司会：早川泰司 記録：金地和代 参加人数：17名

1. 報告事項

本日のお話を聞く会参加者数 51名

- ・あいち多文化情報誌「DiVE」vol. 3 に酒井代表のインタビュー記事が掲載された。
- ・4月から研修会アンケートを新しいフォーマットで実施し、集計は司会者が集計フォーマットに従って作成する。

2. 検討事項

(1) 6月総会・交流会について

「みんなで考えよう！教室活動とネットワーク—つながっているからできること—」

ファシリテーター：酒井代表

4～5 グループに分かれ気楽に話せる相互交流の場にし、全体で情報共有

- ①教室紹介
- ②教室のいい点のアピール
- ③困りごと
- ④まとめ

(2) 研修会について

- ・3月に提案された「フィリピンパブ嬢の社会学」は会報でお薦め図書として紹介する。

7月：講師：大橋充人（みちと）さん（愛知県多文化共生推進室 室長補佐）

内容：文化庁地域日本語教育コーディネーター研修での発表内容

＋今年度策定予定の「第3次あいち多文化共生推進プラン」

9月：可児市国際交流協会が制作したドキュメンタリー映画

「Journey to be continued」（続きゆく旅）の上映

11月の出張研修会は今年度は開催しない。

(3) シンポジウム 2017 のテーマについて

①「やさしい日本語」

庵功雄先生（一橋大学国際教育センター）と佐藤和之先生（弘前大学）

②外国人技能実習生

朝日新聞の記事「外国人実習生その実態紹介」—SNS 使い言葉の壁越え支援

実習生の定住化での日本語教室の役割

③「やさしい日本語落語」福岡柳川高校で桂かい枝さんがやさしい日本語で落語を実践⇒意見を出し合って検討する。

- ・シンポジウム委員長は浜原事務局長（兼務）に決定。

(4) その他

- ・研修会講師謝礼の値上げ案（10,000 円→15,000 円）を総会にて検討する。

承認されれば、2017年7月より実施。

5月例会 2017年5月13日(土)

司会：金地和代 記録：浜原弘也 参加人数：15名

1. 報告事項

(1) 本日のお話を聞く会 参加者数 56名

(2) 7/8(土) 名工大で開催される「日本語ひろば」にて日本語教室の課題話し合いに TNN にブース出展の要請有り。松本さん、米勢さん、岡部さん参加予定

(3) 九番団地が民間へ売却と3月例会で報告したが、向こう3年間は据え置きに変更。

2. 検討事項

- (1) 6月交流会について (担当:酒井)
 - ・教室活動の悩みや課題をざっくばらんに話し合いたい。
 - ・参加者数により複数チームに分かれる。(同じ教室の人は分散してもらう。)
 - ・リーダーはチーム内で選んでもらい参加者主体で話し合いを進める。
- (2) 研修会について
 - ・9月テーマ未決定だが、可児市国際交流協会が上映した「技能実習生」の映画を上映したい。現在許可回答待ちで5/26に判断できる。
 - ・映画が否の場合
- 「子ども」関連
 - ①清長豊さん@犬山市
発達障がい等による学習困難を抱えた子供たちの学習支援
 - ②田中宝紀さん@東京福生市
定住外国人自立支援
- 「地域日本語」関連
 - ①中東康恵さん@岡山市 行政・市民と協働で取り組む日本語教室
 - ②伊藤美智代さん@広島県呉市 みんなが楽しめる市民による市民のための教室
づくり「その他」文化庁国語課・北村さんなどを検討する。
- (3) シンポジウムについて
 - ・午前中:各教室ブース出展と交流会(昨年同様)
 - ・午後:ミニレクチャー+ワークショップ
 - ミニレクチャー:聖心女子大学 岩田先生「やさしい日本語」について
 - ワークショップ:コント形式で「やさしくない日本語指導あるある事例」紹介後、会場の隣同士で意見交換 発言形式
 - ・岩田先生の都合が悪ければ庵先生(一橋大学国際教育センター)に要請。
講師出演交渉は米勢さん

7月例会 2017年7月8日(土)

司会:山本 剛 記録:藤本寿子 参加人数:16名

1. 報告事項

シンポジウムの報告書作成に使用できるよう、AIAに助成金申請中

2. 検討事項

- (1) 研修会について(1~3月)
 - ①清長豊さん 発達障がいを持つ子どもの支援
 - ②松井さん 国際交流基金から横浜市国際交流協会(横浜ラウンジ)に転職された。
愛知県出身、豊橋で日本語ボランティアを経験したことをきっかけに、今の活動につながった話が聞ける。横浜で行っている日本語教育、多文化共生について
 - ③1つは教え方、テキスト関係を取り入れたい
- (2) シンポジウムについて
 - ・タイトル:わからない日本語使ってない?
～外国人に伝わるやさしい日本語を考えよう～
 - ・午前の部:昨年同様のブース交流会
 - ・午後の部:聖心女子大学・岩田先生の講演
TABOネットさんによる寸劇
 - ・寸劇で取り上げたいことば:丁寧過ぎる表現、方言・年配者のことば
(例:勘定して、机釣って等)

3. その他

- ・「技能実習生と日本語教室」勉強会の報告(鈴木さん)

18名参加。参加者それぞれに困っていることがある（急増している、受験目的、団体で参加されると対応できない等）、新制度になつたらどうなるのか、企業は何をしているのか等。次回は8月5日。

- ・京都のネットワークへTNNの紹介に行った件（酒井さん）
TNNの成立を説明、質疑に答える。
- ・シンポジウム、例会とは違う何かができる。
- ・会報「知っとく」コーナーの質問を募集。
- ・送信宛先を伊藤さんから山田さんに変更。

9月例会 2017年9月9日(土)

司会：藤本寿子 記録：鈴木勝代 参加人数：15名

1. 報告事項

- (1) 3月研修会について
N3テキストで交渉中
- (2) 「技能実習生と日本語教室」9月16日 ウィルあいち

2. 検討事項

- (1) 来年度の出前研修会8月開催（豊川からオファーあり）1月に募集要綱を作る。
*出向くからにはTNN研修だけでなく、周辺地域への呼びかけ等の条件に合う協会を（担当：鈴木）

- (2) シンポジウム
 - ①要綱配布、内容確認
 - ②総合司会：伊藤典子
 - ③司会：米勢さん アシスト：山田さん
 - ④プログラムの色：若草色
 - ⑤ブース出展について
 - ・新しく入会した教室に呼びかける（各担当を決めた）
 - ⑥シンポジウム打ち上げ担当：浜原（25-30名定員）

- (3) 会報
11月発行のラインナップを検討、決定。
各担当者が10月20日までに山田さんに送る。

(4) その他

- ①10月例会
 - ・ワールドコラボと重なる(NIC)
 - ・シンポジウムちらしの印刷、発送予定
- ②午前中に「やさしい日本語」劇団によるシンポジウムのコントの読み合わせ、照明等の打ち合わせがあった。

10月例会 2017年10月14日(土)

司会：岡部真理子 記録：森嶋計詞 参加人数：18名

1. 報告事項

- ・本日のお話を聞く会 参加人数：51名

2. 検討事項

- (1) 研修会について
 - ①3月…『日本語能力検定試験新完全マスター語彙 N3』著者 伊能裕晃さん
テーマ「地域日本語教室での検定テキストの使い方」（決定）
 - ②4、5月…（案）
 - ・穂田島での実践について

- ・「ボランティア研修」用の冊子を書いた金田先生に「教室活動」について
- ・介護・看護の支援活動をしている平井達也さんにEPAなどについて
- ③会場について 4月第1会議室(広い所)、5月第2研修室
- (2) シンポジウムについて
 - ①25団体がブース参加予定。レイアウトはまた後日決定する。
 - ②現状で会場のスペースはギリギリだがどうするか→工夫して26団体までは許可とする。ダメな時は2ブース出展を希望しているAIAを一箇所にしてもらう。
 - ③東海市日本語協会の出欠は?→2団体ある。子供向け教室の方は出ない。
 - ④今後、同じ団体から2ブース出したいと申し込みがあった場合どうするか。
 - ⑤スリーエーからは連絡有り、凡人社からは現状連絡なし→NICから連絡する。
 - ⑥昼食はサンドイッチ。個数は後日決める。
 - ⑦役割が決まった。
 - ⑧懇親会(11名参加予定)は長楽園に決定 飲み・食べ放題3,780円
- (3) 会報(山田)
原稿を依頼中です。
- (4) その他
来年度のシンポは12月1日でホールを抑える(NIC)

1月例会 2018年1月13日(土)

司会: 浜原弘也 記録: 金地和代 参加人数: 13名

1. 報告事項

- ・米勢治子副代表が、平成29年12月15日に文化庁から「文化発信部門 文化庁長官表彰」されました。

2. 検討事項

(1) 研修会・交流会について

- ・6月交流会→モハメド・オマル・アブディン(スーダン)『わが妄想』を読み、米勢さん、鈴木さん、土井さんから推薦あり。彼の体験をみんなに知ってほしい。一般の人も対象の講演会にしてはどうか。6月か7月研修会で検討する。

(2) シンポジウム反省について

- ・参加者 225名
- ・アンケート結果では、交流会や全体評価ともに「良かった」が多かった。
- ・コントもわかりやすく、おもしろかったと好評。
- ・岩田先生の話はわかりやすく、楽しかった。
- ・交流会で私的な話をしている人がいて、うるさかった。

(3) 会報

- ・2月発行(72号)の締切は2月6日
- ・岩田先生の原稿依頼の確認

(4) 新年度役員、協議員について

- ・各団体から新しい人を検討していく。

(5) ホームページについて

- ・土井さんからの提案があり、更新されている。
- ・「TNNとは」をトップに出したほうがよい。「日本語教室リスト」をどうするか検討する。

3. その他

- ・活動報告書については、年末にほとんど原稿が集まっている。
写真を検討している。
- ・新聞に「日本語教室に実習生急増」の記事で刈谷市の日本語ボランティア教室の

現状が紹介された。

2月例会 2018年2月10日（土）

司会：浜原弘也 記録：金地和代 参加人数：13名

例会参加者：浜原 酒井 伊藤 早川泰司 渡辺富紀子 米勢 白石 藤本 金地

松本一子 鈴木勝代 川口 (NIC) 山田

*新参加者：なし

1. 報告事項

- ・本日のお話を聞く会 参加人数： 40 名
- ・凡人社からTNNへ『日本語教育への道しるべ』シリーズ4巻が寄贈された。

2. 検討事項

(1) 研修会について

- ・7月、9月の研修会について
坂本先生を中心とした日本語教育の入門書『日本語教育への道しるべ』(シリーズ4巻)が面白い内容もあるので、坂本先生、川崎先生に対象者をボランティアとしたお話を、2回にわたってして頂いたらどうか。(次回、例会時に著書を持ち帰った人の意見を参考に研修依頼内容をまとめる。)
- ・出張研修会については8月4日（土）開催。3月に公募をかけ4月の例会で出張先をどこにするか話し合いをする。(4/7公募締切)

(2) 会報

- ・TNN会報第72号は原稿の締め切りに遅れもなく、2月10日に会報委員へ添付送付する予定。3月10日に発送予定。
- ・TNN会報第73号（7月発行）→文化発信部門で文化庁長官表彰を受賞された米勢治子副代表の日本語教育の思いを「文化庁広報誌 ぶんかる」から転載が可能か北村さんに確認し、可能な場合トップ記事で記載する。

(3) ホームページについて

- ・ホームページのお知らせは、直近2か月にした方がよいのでは。
- ・ホームページチームを作り、チームとしてホームページを作っていくのがよい。
(4月結成を目指す)
- ・次回例会までに、ホームページへの意見を各々まとめる。

3. その他

- ・2018年度、協議員・役員確認。
- ・4月14日、米勢治子さんと尾崎明人さんのお祝い会。
- ・報告書校正 2月24日締切
- ・31年度4月研修会は第一会議室。
- ・NIC4階、TNNロッカー前整理を例会後に実施。

会報挿入

年表：日本語教育推進実績

(1993年12月～2018年3月)

東海日本語ネットワーク（TNN）は（公財）名古屋国際センター（NIC）と共に毎年12月にシンポジウムを開催してきました。このシンポジウムの先駆けであり、TNN設立（1994年6月）の契機にもなったのは、（独）国立国語研究所が主催した「日本語教育相互研修ネットワークシンポジウム『地域の外国人と日本語』」でした。また、設立翌年からは月例会時に研修会を開催し、2002年6月からはNICの共催を得て「日本語ボランティア研修～開かれた地域社会をめざして」と題して開催しています。

ここに、それらの概要を中心にTNNの活動実績を記載することとします。

1993年12月

【日本語教育相互研修ネットワークシンポジウム】（主催：国立国語研究所）

「地域の外国人と日本語」

《講演1》「地域における日本語学習支援の現状」 講師：柳澤好昭（国立国語研究所）

《講演2》「『人間らしく生きること』と『日本語を学ぶこと』-日本語学習を支援する」 講師：野元弘幸（埼玉大学）

《パネルディスカッション》

司会：朝倉明彦（豊田市国際交流協会 ALPHA）

加藤千恵子（NIC日本語の会）、鈴木勝代（ことばの会）、岩崎敏彦（小牧市日本講座）、原千代子（川崎市ふれあい館）、吉崎茂（企業業務担当者・日系ブラジル人二世）、加納ジョージ（日本語学習経験者）

1994年度

【日本語支援活動シンポジウム】

「学習者とともに日本語学習を考える」

《活動報告／パネルディスカッション》

「めだかの学校とともに歩んだ3ヵ年」

めだかの学校

《学習者アンケート結果報告》

《分科会》

①「こんな日本語教室あつたらいいな」

Aグループ：半田市国際交流ボランティアクラブ

Bグループ：昭和日本語をはなす会（昭和社教センター）

Cグループ：東別院日本語教室

Dグループ：ことばの会

②「学校と家庭」

司会：米勢治子（TNN）

堀内由紀子・田中恵子（浜松市ことばの教室）、太田晴雄（帝塚山大学）、李陽（親の立場から）

《全体会》

【研修会】

3月 お話を聞く会「地域の外国人と日本語」

講師：尾崎明人（名古屋大学）

【調査】

・日本語学習者へのアンケート調査（TNN団体会員日本語教室学習者対象アンケート調査実施・回答数156）

・日本語教室教材使用調査（TNN団体会員日本語教室対象アンケート調査実施 回答クラス数54）

【学習会】

「『新日本語の基礎I』の教え方、日本語教育の基礎知識、日本語教室の活動紹介」

講師：加藤千恵子（NIC日本語の会）

（9月～11月 全11回、3ヶ所にて実施）

1995年度	
<p>【日本語ボランティアシンポジム】 「ボランティアで日本語を教えるということ」 『活動報告／パネルディスカッション』 コーディネーター:川村久子(NIC 日本語の会) 藤本久司(伊賀日本語の会)、土平美葉里(いろは日本語の会)、田窪朋子(グループ・デ・アポイオ)、高橋悟(一宮国際交流協会) 『交流タイム／ブース展示』 『分科会』 ①「入門レベルについて-初めて日本語を学ぶ人の学習とは」 石原志保(NIC 日本語の会)、船見和秀(伊賀日本語の会)、加藤千恵子(NIC 日本語の会)、松尾真美子(NIC 日本語の会) ②「初級レベルについて」 酒向紀子(黒川日本語教室)、福本典子(黒川日本語教室) ③「中上級レベルについて」 ことばの会 ④「読むこと・書くことについて」 岩月康雄(東別院日本語教室) ⑤「子どもたちの母語教育について」 司会:米勢治子(TNN) 川崎房世(ABRA)、サントス政子(石浜保育園) 『全体会』 </p>	<p>【研修会】 4月 お話を聞く会「中国帰国者として」 講師:内村宗雄 5月 お話を聞く会「地域の日本語教育を概観する」 講師:米勢治子(ECC 日本語学院) 6月 公開講演会「地域のオリジナル教材作りの試み」 講師:野元弘幸(埼玉大学) 7月 お話を聞く会「異文化理解教育への取り組み」 講師:松尾操(新明小学校) 8月 お話を聞く会「ニュージーランドでの生活体験」 講師:加藤千恵子(NIC 日本語の会) 9月 お話を聞く会「中国者帰国者について」 講師:若田しげ子(黒川日本語教室) 9月 公開講演会「母語でない言語環境から生じる子どもたちの問題」 講師:太田晴雄(手塚山大学) 11月 お話を聞く会「グループで学ぶ日本語」 講師:林伸一(山口大学) </p>
【プロジェクト】	
<p>「共に生きる地域社会を考える」(10月～3月) 企画会議の開催(全7回:11月～12月)、インタビューの実施(1月21,28日)、『共に生きる地域社会を考える会』の実施(3月)、報告書作成</p>	
1996年度	
<p>【日本語ボランティアシンポジウム】 「今、私たちにできること」 『基調講演』 「地域社会における日本語教室の役割」 講師:山田泉(大阪大学) 『交流タイム／ブース展示』 『ディベート』 「日本語教室のあり方を考える 論題『ボランティアの日本語教師は日本語教育の知識をもっているべきか否か』」 司会:吉田奈美(国際ディベート学会認定トレーナー)、 田中詩子(NIC 日本語の会)、田中益子(EN の会)、 仲村佳子(いろは日本語教室)、松尾真美子(NIC 日本語の会)、岩月康雄(東別院日本語教室・夜の部)、石原志保(NIC 日本語の会)、小林昌子(NIC 日 </p>	<p>【研修会】 4月 話し合う会「クラスに生じるレベル差にどう対応するか」 6月 公開講演会「伊賀日本語の会-地方での取り組みと課題」 講師:藤本久司(伊賀日本語の会) 7月 お話を聞く会「外国人労働者の抱える諸問題」 講師:狩浦正義(みこころセンター) 8月 お話を聞く会「中国帰国児童の指導を通して学んだこと」 講師:佐田保(名古屋市立老松小学校) 9月 話し合う会「文字を教える」 10月 お話を聞く会「保育所・小中学校における外国児童の受け入れ」 講師:山本理恵(愛知県立大学) 11月 お話を聞く会「VTRを通しての授業観察」 講師:坂本正(南山大学) </p>

過去の活動一覧

<p>本語の会)、小林喜子(ことばの会)、鈴木由美(東別院日本語教室)</p>	<p>1月 話し合う会 「日本語ボランティアシンポジウムを振り返る」 2月 お話を聞く会 「音声教育の基礎」 講師:鹿島央(名古屋大学) 3月 話し合う会 「行政への提言を考える(その1)」</p>
1997年度	
<p>【日本語ボランティアシンポジウム】 「ひろがる日本語ネットワーク・ネットワークって何?」 《基調講演》 「ラディカル・ネットワーキング~地に豊かな根を張るために」 講師:春原憲一郎((財)海外技術者研修協会 東京研修センター) 《交流会/ポスターセッション》 全国12地域のネットワーク:北海道日本語教育ネットワーク・阿部仁美、山形日本語ネットワーク・五十嵐京子、房総日本語ボランティアネットワーク・村上英己、東京日本語ボランティアネットワーク・臼杵みどり、北陸地区日本語教育ネットワーク・島広子・東海日本語ネットワーク・小林喜子、兵庫日本語ボランティアネットワーク・古藤友子、岡山県日本語ボランティアネットワーク・浦上典江、山口県日本語ネットワーク・二宮喜代子、えひめ日本語ネットワーク・塩入愛子、福岡日本語ボランティアネットワーク・野口照代、日本語研究会ASA・小川ひろみ 《パネルディスカッション》 「ネットワークは何をめざすか」 コーディネーター:石井恵理子(国立国語研究所) 北村喜美江(北海道)、加藤耕(山形)、林川玲子(東京)、米勢治子(東海) 《全体会》</p>	<p>【研修会】 4月 話し合う会 「ボランティアの悩みなんでも相談」 5月 お話を聞く会 「発音指導のヒント」 講師:鹿島央(名古屋大学) 6月 公開講演会 「共生のまちづくりめざして-川崎市の識字学級の事例より」 講師:熊谷道広(川崎市教育委員会社会教育主事) 7月 お話を聞く会 「絵を描いて教える日本語」 講師:永保澄雄(龍谷大学) 9月 話し合う会 「行政への提言を考える(その2)」 10月 お話を聞く会 「外国人児童の教育の問題」 講師:松本一子(名古屋大学) 11月 お話を聞く会 「ブラジル人と日本人の会話に学ぶ」 講師:尾崎明人(名古屋大学) 1月 話し合う会 「日本語ボランティアシンポジウム反省会」 2月 お話を聞く会 「外国人のための防災マニュアル」 講師:平子寿美麗、松本恭子(にほんご教育の「八の会」) 3月 お話を聞く会 「効果的な文字の指導法」 講師:月崎美智子(静岡大学付属小学校)</p>
1998年度	
<p>【日本語ボランティアシンポジウム】 「地域日本語教育の可能性をさぐる~多様化する日本語教室」 《基調講演》 「子どもたちへの日本語教育・現状と課題」 講師:西原鈴子(東京女子大学) 《交流タイム/ブース展示》 《分科会》 ①「子どもたちへの日本語支援、これからの教室づくり」 松本一子(TNN)、片山義文(知多市立新田小学校)、土屋喜代子(知多市立つづじヶ丘小)、島田紀美</p>	<p>【研修会】 4月 お話を聞く会 「ブラジル国籍の小中学生が抱える問題」 講師:清池田千恵・ロゼリー(豊田市語学相談員) 5月 お話を聞く会 「異文化の中で戸惑う子どもたち」 講師:脇田雅子(桑名市国際化対応教員) 6月 公開講演会 「コンピューターを利用した日本語教育」 講師:青田健司(豊橋市立南部中学校) 7月 話し合う会 「テーマ1:日本語能力試験1級のためのクラス」 進行:石井敏子(ことばの会) 「テーマ2:新聞などを教材にしたクラス活動」</p>

<p>子(春日井市日本語教育講師)、桜田順子/深見浩子(豊田市立保見中学校ボランティア)、真弓智恵/真弓浩二/若尾恵一(TIA/ALPHA)、金田エリザ清美/久世淑子(TIA/ALPHA)、伊東祐郎(東京外国語大学)</p> <p>②「行政との連携を考える」 石川哲治(名古屋国際センター交流協力課長)、柴田亨(大阪市教育委員会社会教育課人権教育推進係長)、埋橋淑子(大阪市立池島小傷害学習ルーム日本語教室ボランティアコーディネーター)、杉澤経子(武蔵野市国際交流協会プログラムコーディネーター)、藤本令子(武蔵野市国際交流協会日本語交流員)、三島知斗世(豊田市国際交流協会主査)、河田斎(小牧市国際交流協会課長)、伊藤美代子(小牧市国際交流協会「漢字教室」ボランティア)、野山広(文化庁文化部国語課)</p> <p>③「行きたくなる日本語教室をめざして」 岩月康雄(TNN)、渡部尚子(ALOE・あかさたな)、木下周治/末吉賢治(TIA・ALPHA)、平沢京子(安城日本語教室)、鈴木由美(東別院日本語教室)、鈴木隆敏/堀口直樹(NIC日本語の会)、野田ヘレン(NIC日本語の会学習者)、佐々木八寿子/西田エディソン(港日本語の会)、石井恵理子(国立国語研究所)</p> <p>④「どうする 文字教育」 西口光一(大阪大学)、原法子(TNN)、益城彰子(TIA日本語サロン)、金木京子(あかさたな)、井江ミサ子(町屋日本語教室)、石原志保/板倉和子(NIC日本語の会)</p>	<p>進行:岩月康夫(東別院日本語教室) 9月 お話を聞く会「日本のフィリピン女性について」 講師:石原バージ(FICAP名古屋支部長) 10月 お話を聞く会「文化庁日本語教育研究協議会からの報告1」 11月 お話を聞く会「文化庁日本語教育研究協議会からの報告2」 1月 話し合う会「日本語ボランティアシンポジウムを振り返って」 2月 お話を聞く会「外国人相談窓口について」 講師:鈴木隆敏(安城市嘱託外国人相談員) 3月 お話を聞く会「日系集団移住地における日本語教育の現状と課題 -ボリビア共和国オキナワ移住地の事例」 講師:糟谷千香江(東北大学大学院)</p>
---	---

1999年度

<p>【日本語ボランティアシンポジウム】 「あなたならどうする、こんな場合」 《コント》 「問題発見から始めよう」 司会:米勢治子/岩月康雄(TNN) コメント:佐々木倫子(国立国語研究所) 加藤寿子/渡辺富紀子(四日市市勤労青少年ホーム日本語教室)、三井豊(めだかの学校)、小林喜子(ことばの会)、堀口直樹/石原志保/片寄洋子(NIC日本語の会)、宮田明/丁軍/楊林/トニー吳/近藤まりあ(学習者)、金井れいこ(日本語教室「あかさたな」) 《交流タイム/ブース展示》 《分科会》 ①「ボランティア間のコミュニケーションの取り方と教室運営」</p>	<p>【研修会】 4月 講演会「世界がキング小学校にやってくる!外国人児童・生徒の教育を考える~アメリカ多文化教育の事例を中心に」 講師:野元弘幸(東京都立大学) 5月・お話を聞く会「教室活動に活かすOPIインタビュー」 講師:大林惇子(日本福祉大学) 6月 交流会 7月 お話を聞く会「名古屋から世界へ飛び立つボランティア」 講師:川見和子(難民事業本部) 9月 お話を聞く会「八の会・防災マニュアル(改訂版)の紹介」 講師:山田慶江子(にほんご教育の「八の会」) 10月 公開講演会「外国人児童生徒への日本語指導」 講師:大蔵守久(波多野ファミスクール)</p>
--	---

<p>尾崎明人(名古屋大学)、足立祐子(新潟大学)、鈴木勝代(ことばの会)</p> <p>②「学習者と共に考えよう」 田中詩子(NIC 日本語の会)、高柳和子(TIJ 東京日本語研修所)、丁軍/楊林/トニー・吳/近藤まりあ(学習者)</p> <p>③「子どもたちの声を聞こう」 松本一子(愛知淑徳大学)、大蔵守久(波多野アミリスクール)、太田省三(豊橋市教育委員会)、伊東淨江(TIA/ALPHA)、佐伯和美/比嘉ジュニオル/嵯峨武(学習者)</p> <p>④「生き生きとした会話指導のために OPIを使って」 石原志保(NIC 日本語の会)、大林惇子/片寄洋子(ACTIFL-OPI テスター)、武志剛/李文景/ユーヌス・サンペチュラ(学習者)</p>	<p>1月 話し合う会 「日本語ボランティアシンポジウムを振り返って」</p> <p>2月 お話を聞く会「ブラジル人学校ドルモンドの取り組み」 講師:加藤千恵子(同校日本語講師)</p> <p>3月 お話を聞く会 「自分を語る交流活動」 講師:西口光一(大阪大学)</p> <p>【調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域日本語教室活動実態調査(TNN 団体会員日本語教室対象アンケート調査実施・回答数 23) ・ボランティアの意識調査(TNN 団体会員日本語教室ボランティア対象アンケート調査実施・回答数 232) ・日本語教育支援(リソースルーム設置)に関するアンケート結果(日本語ボランティアシンポジウムの参加者・回答数 131)
2000 年度	
<p>【日本語ボランティアシンポジウム】</p> <p>「今のままでいいですか？」</p> <p>《プロローグ:朗読》</p> <p>《講演》</p> <p>「社会を変えるための『学び』～学ぶのはだれか」 講師:山田泉(大阪大学)</p> <p>《交流タイム/ブース展示》</p> <p>《分科会》</p> <p>①「行政に望む日本語教育支援」 米勢治子(TNN)、尾崎明人(名古屋大学)</p> <p>②「子どもの未来を守るために」 松本一子(愛知淑徳大学、TNN)、船橋月江(小牧市立味岡中学校)、船見和秀(三重県阿山町立中学校 いろはキッズ)、今澤悌(山梨県韮崎市立韮崎北西小学校)</p> <p>③「学習者と共に:さまざまな教室での取り組み」 小林喜子(ことばの会、TNN)、柳澤好昭(国立国語研究所)、才野富美子/May Aung(ことばの会)、木下周治/森輝之(TIA、ALPHA)、関八代重/河野ケイジ(保見ヶ丘国際交流センター)</p> <p>④「いっしょに考えてみましょう!ボランティア活動としての日本語の教え方」 堀口直樹(NIC)、高柳和子(TIJ 東京日本語研修所)</p>	<p>【研修会】</p> <p>4月 話し合う会 「日本語教育リソースルームの活用について」 進行:岩月康雄(TNN リソースルーム担当)</p> <p>5月 話し合う会 「ホームページの活用について」 進行:山澤洋(TNN ホームページ担当)</p> <p>6月 交流会</p> <p>7月 お話を聞く会 「外国人支援から痛感する国際理解教育の必要性」 講師:中川順子(国際交流コーディネーター)</p> <p>9月 お話を聞く会 「多文化クラス 学習者とボランティアの共同作業を考える」 講師:土屋千尋(愛知県立大学)</p> <p>10月 お話を聞く会 「外国人の言語保障の制度化に向けての全国的な取り組み」 講師:野元弘幸(東京都立大学)</p> <p>11月 お話を聞く会 「乳幼児を連れた学習者に開かれた教室とは」 講師:原法子(TIA 日本語サロン)</p> <p>1月 話し合う会 「日本語ボランティアシンポジウムを振り返って」</p> <p>2月 お話を聞く会 「『NPO フェスタ愛知』の参加報告」 講師:三村治(ことばの会)</p> <p>・お話を聞く会 「大連の日本語教育事情」 講師:安藤珪子(ことばの会)</p> <p>3月 お話を聞く会 「ボランティア活動としての日本語</p>
<p>【日本語教育リソースルーム設置記念企画】</p> <p>愛知県国際交流協会(AIA)との共催</p>	

過去の活動一覧

<p>○オープニングシンポジウム(5月27日) 「地域の日本語教育とリソースルームの役割」 《講演》「地域の日本語教育から見えてきたこと」 尾崎明人(名古屋大学) 《パネルディスカッション》「リソースルームに望むこと」 コーディネーター:柴田明(AIA) 岩月康雄(東別院日本語教室)、鈴木勝代(ことばの会)、松本一子(愛知淑徳大学)、米勢治子(TNN) ○オープニング講演会(7月22日) 「来日児童生徒に対する教科指導」 講師:大蔵守久((財)波多野ファミリースクール)</p>	<p>の教え方 その2」 講師:高柳和子(TIJ 東京日本語研修所)</p> <p>【調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多言語対応及び地域日本語教育支援の実態調査(愛知県下の行政及び公的機関対象アンケート調査実施・回答数 87) ・地域日本語教室活動実態調査(TNN 団体会員日本語教室対象アンケート調査実施・回答数 48) ・学習者の意識調査(TNN 団体会員日本語教室学習者対象アンケート調査実施・回答数 567)
2001 年度	
<p>【日本語ボランティアシンポジウム】 「はじめの一歩、もう一歩」 《ブース展示》 「ボランティア日本語教室見本市」 「海外の言語サポート事情」 《セッション 1》 「わたしの教室実況中継」 あいち国際プラザにほんご教室、日本語教室「あかさな」、伊賀日本語の会、刈谷日本語教室、ことばの会 1・2、保見ヶ丘日本語教室 《セッション 2》 「子どもたちを地域でささえる第一歩」 司会:松本一子(TNN) 中津美和・桐山宏子(とよなか国際交流協会 子どもメイト)、井村美穂・早川真理(子どもの国 ゆめの木教室)、富本潤子・梅田玲子(IAPE 外国人児童生徒保護者交流会) 《セッション 3》 「もし私が先生だったら」 司会:岩月康雄(TNN) コーディネーター:服部明子(東別院日本語教室) 平井プロエンピット、二村サコン、シャニダ萩山、水野ワサナ、町田パンパニ</p>	<p>【研修会】</p> <p>4月 お話を聞く会 「ビデオから情報を拾う-『文化』を中心に」 講師:中道真木夫(名古屋外国語大学) 5月 お話を聞く会 「多文化共生社会を目指して-在住外国人の現状と展望」 講師:藤本久司(伊賀日本語の会) 6月 交流会 「お悩み解決隊」 進行:土屋千尋(愛知県立大学) 7月 お話を聞く会 「伊賀上野の外国人-現況と行政・ボランティア」 講師:菊山順子(伊賀日本語の会) 9月 お話を聞く会 「多文化先進国に学ぶもの-イギリスのマイノリティ児童」 講師:藤本久司(伊賀日本語の会) 10月 お話を聞く会 「とよなか子どもメイトの活動」 講師:鍛治致(とよなか国際交流協会 子どもメイト) 1月 話し合う会 「日本語ボランティアシンポジウムを振り返る:その1」 2月 話し合う会 「日本語ボランティアシンポジウムを振り返る:その2」 3月 お話を聞く会 「初級教科書『げんき』が目指したもの」 講師:大野裕(名古屋大学)</p>
<p>【調査】 海外の言語サポート事情「ことばと生活のお手伝い」調査実施(情報収集)</p>	
2002 年度	
<p>【日本語ボランティアシンポジウム】 「みんなで生かそう あなたの体験」 《報告》 「ことばと生活のお手伝い調査」 中道真木男(名古屋外国語大学)</p>	<p>【研修会】</p> <p>4月 お話を聞く会 「シンポジウムアンコール 1:教室実況中継」 講師:吉田千寿子/岡孝子(ことばの会) 5月 お話を聞く会 「シンポジウムアンコール 2:とな</p>

<p>《パネルディスカッション》 「異文化体験を語ろう～異文化の中での暮らしと学び」 司会:米勢治子(TNN) アンジェロ・ヤミド・ガルセス・サパタ(にし・日本語の会)、榎原和美(ことばの会)、林貞愛(ことばの会)、鳥澤邦俊(港日本語の会)、 《交流タイム／ブース展示》 《アトラクション》 「歌って学ぼう『日本語ライブ』」 吉田千寿子他(ことばの会) 《分科会》 ①「わたしの教室実況中継」 司会:中道真木男(名古屋外国語大学) コメント:鈴木勝代(ことばの会) 四日市きんせい日本語教室、多治見国際交流協会 日本語教室、港日本語教室、いろは日本語の会 ②「学び合おう！子どもの心とことば」 司会:松本一子(TNN) 中島和子(名古屋外国語大学)、 杉本一正(愛知県豊田加茂児童相談センター)</p>	<p>りにすわった人はどんな人？一人一人の顔が見えてくる入門クラス」 講師:土屋千尋(保見ヶ丘国際交流センター日本語教室) 6月 交流会「みんな集まれ！日本語ボランティア“同窓会”話しましょう！私の教室、私の悩み」 7月 お話を聞く会「ブラジル報告：子どもたちの状況」 講師:松本一子(TNN、愛知淑徳大学) 9月 お話を聞く会「在日10代ブラジル人の親子のコミュニケーション-言語生活と心の問題」 講師:松酒クリスチーナ(国際交流基金日本語普及センター大学院修士コース第一期生) 10月 お話を聞く会「リソースルーム活用の傾向と対策」 講師:栗木梨衣(愛知県国際交流協会) 11月 お話を聞く会 講師:アンジェロ・ヤミド・ガルセス・サパタ(にし日本語の会、中学3年生) 1月 話し合う会「日本語ボランティアシンポジウムを振り返って」 2月 お話を聞く会「年少者のための日本語教材と教授法」 講師:池上智恵子(こどもの日本語教育研究会) 3月 お話を聞く会「港区九番団地での取り組み」 講師:九番団地日本語教室ボランティアスタッフ</p>
---	---

2003年度

<p>【日本語ボランティアシンポジウム】 「明日をひらくネットワーク」 《プレシンポジウム・交流会》(前日開催) 《対談》 「日本語支援を超えて」 司会:米勢治子(TNN) 豊住マルシア(ソナの会)、楓原和子(保見ヶ丘国際交流センター)、 《交流タイム／ブース展示》 《パネルディスカッション》 「地域日本語支援活動～この10年、これからの10年」 コーディネーター:尾崎明人(TNN) コメントーター:野山広(文化庁国語科) ① 学習者の視点から 北川裕子(のしろ日本語学習会)、松本一子(TNN) ② ボランティア研修の視点から 藤本久司(伊賀日本語の会)、鈴木勝代(ことばの会)</p>	<p>【日本語ボランティア研修】 4月 ワークショップ「国際理解教育体験：私たちとアフリカ」 講師:ヤシント国嶋(中部大学スワヒリ語講師) 5月 お話を聞く会「TIAブラジルスタディツアーに参加して」 講師:白井彩絵(豊田市国際交流協会) 6月 交流会「日本語ボランティアの心の相談室」 進行:鈴木勝代(ことばの会) 7月 お話を聞く会「各国のニューカマー・サポート事情」 講師:中道真木男(名古屋外国語大学) 9月 お話を聞く会「参加と対話を通して未来を築く」 講師:山中玲子(NIED・国際理解教育センター) 10月 お話を聞く会「漢字の世界を楽しむ、あるフランス人の眼差し」 講師:フランソワ・デルヴァー(フランス語講師、通訳、日仏空手道場主宰) 1月 話し合う会「日本語ボランティアシンポジウムを振り返って」 2月 お話を聞く会「在日外国人の日本語習得支援ツールとしてのランゲージ・ポートフォリオ」</p>
--	---

<p>③ ネットワーク運営の視点から 永井慧子(大阪にほんごボランティアネットワーク)、長嶋昭親(兵庫日本語ボランティアネットワーク)</p>	<p>講師:青木直子(大阪大学) 3月 お話を聞く会 「地域日本語教室の現状について」 講師:可児市国際交流協会、長久手町国際交流協会の日本語教室スタッフ</p>
2004 年度	
<p>【日本語ボランティアシンポジウム】 「教室へ行こう」 《第1部》「若者講座顛末記」 司会:長谷川紀子(名古屋大学大学院) 鈴木智恵(鳩山女学園大学)、京谷雄二(名古屋外国语大学)、田中恵美子(ヒューマン・アカデミー) 《第2部》「日本語教室探検記」 ①NIC日本語の会 《交流タイム／ブース展示》 ②あいち日本語の会 ③日本語教室あいうえお ④桑名市教育委員会の取り組み 《座談会》 司会:尾崎明人(名古屋大学) 稻田朋晃(四日市勤労青少年ホーム「外国人のための日本語教室」)、金木京子(日本語教室「あかさたな」)、林一也(愛知県国際交流協会)、米勢治子(保見ヶ丘日本語教室)</p>	<p>【日本語ボランティア研修】 4月 お話を聞く会 「日本に滞在するタイ女性について」 講師:スリラット・大久保(タイ女性友の会) 5月 お話を聞く会 「中国『残留孤児』問題の現状と課題」 講師:木下貴雄((特活)日中友好手をつなぐ会) 6月 交流会 「お元気ですか あなたの教室」 進行:鈴木勝代(東海日本語ネットワーク) 7月 お話を聞く会 「教室活動の実践報告」 講師:あいち日本語の会、港日本語の会 9月 お話を聞く会 「移住労働者に対する言語教育政策～ドイツにおける事例から」 講師:平高 史也(慶應義塾大学) 10月 (台風のため中止) 2月 お話を聞く会 「浜松における日本語教育について」 講師:堀永乃(浜松国際交流協会)</p>
<p>【研修】</p> <p>○若者のための日本語ボランティア理解講座(全5回、7月～8月) 主催:TNN 共催:NIC ○シニアからはじめる日本語ボランティア講座(1月～2月) 主催:TNN、ことばの会、AIA ○小中学校・日本語ボランティア現職者研修会「外国人児童をめぐる学校と地域」(3月) 主催:名古屋大学留学生センター、TNN、AIA、NIC、 講師:田中薰(大阪市立豊崎中学校教諭、関西地区日本語指導者研究会事務局)</p>	
2005 年度	
<p>【日本語ボランティアシンポジウム】 「子どもたちのこと 知っていますか?」 《パネルディスカッション》 「子どもたちのためにできること」 コーディネーター:松本一子(TNN) 大口裕子(子ども日本語交流広場)、大谷真矢(College Student Network for Community Service)、佐々木裕子(ササエダーデ)、深見浩子(NPO 法人子ども国) 《交流タイム／ブース展示》 《子どもたちの現状報告》 ① 親の思い 角田・エリーザ・和枝(江南市国際交流協会日本</p>	<p>【日本語ボランティア研修】 4月 お話を聞く会 「日本語の読み書き学習～KUMON 教室の事例に見る心のバリアフリー」 講師:市川静子(公文式高丘教室) 5月 お話を聞く会 「通訳NPOで取り組む多文化共生」 講師:和田京子(通訳 NPO 伊賀の伝丸) 6月 交流会 「日本語教室博覧会」 進行:伊藤典子(東海日本語ネットワーク) 7月 お話を聞く会 「すぐに使える! 日本語会話」 講師:堀永乃(浜松国際交流協会)、白井えり子(HICE 日本語ボランティア教室) 9月 お話を聞く会 「多言語による子育て情報誌～</p>

<p>語教室)</p> <p>② 学校からの発信 村瀬英昭(岩倉市日本語適応指導教室)</p> <p>③ 中学校以降の進路保障 小林芽里(N-Pocket)</p> <p>④ NIC夏休み子ども日本語教室 板倉和子(NIC 日本語の会)</p> <p>《講演》 「非行に走る心-来日外国人少年の非行実態と意識-」 講師:鷺野薰(久里浜少年院次長)</p>	<p>出産から育児まで安心して取り組めるために」 講師:原法子(TIA ボランティアグループ「日本語サロン」)、佐藤如(情報誌編集委員)</p> <p>10月 お話を聞く会 「”ちゃんと教える”から”伝えあう”活動へ～日本語ボランティア養成講座の変遷」 講師:米勢治子(東海日本語ネットワーク)</p> <p>3月 お話を聞く会 「増え続けるブラジル人学校の課題について」 講師:松本一子(東海日本語ネットワーク)</p>
---	---

【研修】

○若者のための日本語ボランティア理解講座(全5回、7月～8月) 主催:TNN 共催:NIC

○シニアのための日本語ボランティア理解講座(全5回、1月～2月) 主催:TNN、AIA

○日本語ボランティア研修会「学習者の視点に立った教材の選び方」(2月)

主催:名古屋大学留学生センター、TNN、AIA、NIC 講師:池上摩希子(早稲田大学)

2006年度

【日本語ボランティアシンポジウム】

「日本で暮らすということ」

《第1部》「私を語る」

①「日本語でチェンジ」

金林義高マルセロ(ブラジル)

②「自分に自信を持つということ」

野田千晶(カンボジア)

《交流タイム／ブース展示》

《第2部》パネルディスカッション》

「私の日本語獲得法～教師活動のヒントあれこれ」

司会:パク・ジュオン(韓国)

アリステオ・ビラヌエバ(フィリピン)、氷室タエコ(ブラジル)、森春美(台湾)、大矢ナディア(イタリア)

《講演》

「私のアイデンティティ～在日が日本で生きるということ～」 講師:金成智(在日コリアン三世、半田市半田中学校教員)

《エンディング》 楽しく歌って学ぼう「また会おうね！」

作詞・作曲・歌:吉田千寿子(TNN)

【日本語ボランティア研修】

4月 お話を聞く会「学習者の声をきく その1」

橋本カイン(ミャンマー)、大矢ナディア(イタリア)

5月 お話を聞く会「学習者の声をきく その2」

パク・ジュオン(韓国)、陳菲(中国)

6月 交流会「私の教室自慢」

進行:米勢治子(東海日本語ネットワーク)

7月 お話を聞く会「多文化託児所の子どもたち」

講師:各務眞弓(Mammy's)、金林マルセロ義高

9月 お話を聞く会「小学校の日本語指導」

講師:福永純子(四日市市立笹川東小学校)

10月 お話を聞く会「日本語ボランティアが知っておくべき外国籍市民に係る法律基礎知識」

講師:鍵谷智(外国人入管手続研究会、行政書士)

2月 お話を聞く会「生教材を授業に取り入れる方法

『日本語教師必携 すぐに使える「レアリア・生教材』

アイデア帖』を使って』

講師:久保田美子(国際交流基金日本語国際センター)

【研修】

○若者のための日本語ボランティア理解講座(全5回、7月～8月) 主催:TNN 共催:NIC

○シニアのための日本語ボランティア理解講座(全6回、1月～2月) 主催:TNN、AIA

○小中学校・日本語ボランティア現職者研修会「日本語を母語としない子どもの日本語教育を考える」(3月)

主催:名古屋大学留学生センター、TNN、AIA、NIC 講師:川上郁雄(早稲田大学)

2007年度

【日本語ボランティアシンポジウム】

【日本語ボランティア研修】

<p>「日本語スピーチ…私の思い」 《スピーチ》「私の思い」 司会:金地和代(東別院日本語教室)、伊藤典子(ことばの会) 全仁順(韓国)、アイリーン・フローレス(フィリピン)、 フニア・リオン(ニュージーランド)、岩本淑敏(台湾)、 ボンダレンコ・オリガ(ウクライナ)、謝璟(中国)、森永 サラザー・ジャンディン(フィリピン)、金慶善(韓国)、 ウィックラマラッタ・ナヤニ・ランガ(スリランカ)、カイン ・サンダー(ミャンマー)、渡辺ホベルト(ブラジル)、 毛敏(中国) 《交流タイム・ブース展示》 《特別企画》 ブラジル人児童・生徒による「和太鼓」演奏 《報告》「スピーチをサポートして」 司会:安藤桂子(春日井日本語教室) 上村園子(あいち日本語の会)、伊藤千恵美(NIC 日 本語の会)、堀ゆき子(東海市国際交流協会日本語 教室)、池田彰子(日進市国際交流協会 NIA 日本語 教室) 《エンディング》 「おやすみ」 作詞・作曲・歌:吉田千寿子(TNN)</p>	4月 お話を聞く会 「日本に暮らす難民の人たち」 講師:中尾秀一((財)アジア福祉教育財団難民事業 本部 関西支部) 5月 お話を聞く会 「地震防災『やさしい日本語』で伝 える取り組み」 講師:松本恭子、山田慶江子(にほん ご教育の「八の会」) 6月 交流会 「みんなでつくる活動ネタ集」 進行:吉田千寿子 7月 お話を聞く会 「朝鮮学校における母国語教育と 日本語教育について」 講師:安城伊(豊橋朝鮮初級学校教員) 9月 お話を聞く会 「会話指導について考える:国際 交流基金日本語教授法シリーズ『話すことを教える』 を使って」 講師:木田真理((独)国際交流基金日本 語教育センター) 10月 お話を聞く会 「企業の多文化共生事業-日系 従業員のための日本語教室-」 講師:石岡修(ヤマ ハ発動機株IM カンパニー事業推進部) 3月 お話を聞く会 「とよた日本語学習支援プロジェ クト-予備調査から見えてくるもの-」 講師:衣川隆雄(名古屋大学留学生センター)
--	---

【研修】

○若者のための日本語ボランティア理解講座(全5回、7月～8月) 主催:TNN 共催:NIC

講師:TNN 所属ボランティア

○シニアのための日本語ボランティア理解講座(全5回、1月～2月) 主催:TNN、AIA

○小中学校教員・日本語ボランティア現職者研修会「文化間を移動する子どもたちのことばと学び」(2月)

主催:名古屋大学留学生センター、TNN、AIA、NIC 講師:斎藤ひろみ(東京学芸大学)

2008年度

<p>【日本語ボランティアシンポジウム】 「伝え合う言葉と文化」 《講演》 「文化的多様性へ～社会のしくみが人をつくる」 講師:斎藤里美(東洋大学) 《交流タイム／ブース展示》 《発表》 「伝えたい、わたしの言葉で」 司会:三浦珠視(中津川日本語サークル) 孫瞳(東海市国際交流協会日本語教室)、ノザキ・ エルトン(保見ヶ丘日本語教室)、キム・ステルツァ (NIC 日本語の会)、レヤー・ディミトリー(ことばの会: 水曜クラス)、艾文超(刈谷市国際交流協会日本語支 援グループ)金美珍(豊橋ふれあい日本語教室)、ジ</p>	<p>【日本語ボランティア研修】 4月 お話を聞く会 「外国人住民と地域支援の今とこ れから」 講師:藤本久司(三重大学) 5月 お話を聞く会 「あかばね・ひらがなの会を始め て」 講師:中村都祁子(あかばね・ひらがなの会) 6月 交流会 「みんなでつくる活動ネタ集2」 進行:米勢治子(東海日本語ネットワーク) 7月 話し合う会 「私たちの入門攻略法」 司会:渡辺富紀子(東海日本語ネットワーク) 9月 お話を聞く会 「地域の日本語教室での『みんな の日本語』活用法」 講師:澤田幸子((財)海外技 術者研修会 関西研修センター) 10月 お話を聞く会 「出前！日本語ボランティア養 成講座から見えてくるもの」</p>
--	---

<p>ヤスティン・マウバウ(ことばの会・金曜クラス) 『アトラクション』 楽しく歌って学ぼう「あいさつの歌」 作詞・作曲・歌:吉田千寿子(TNN)</p>	<p>講師:鈴木勝代(ことばの会)、竹岡美代子(豊橋市国際交流協会) 3月 お話を聞く会 「『毎日使って しっかり身につくはじめよう日本語初級』を使った授業の進め方」 講師:広瀬万里子(TIJ 東京日本語研修所)</p>
---	--

【研修】

○シニアのための日本語ボランティア理解講座(全6回、1月~2月) 主催:TNN、AIA

○日本語ボランティアセミナー 「私が日本語ボランティアをするわけ」(2月)

主催:名古屋大学留学生センター、TNN、AIA、NIC

コメントーター:土井佳彦(とよた日本語学習支援システム)

鈴木智恵(会社員)、伊木・デ・フレイタス・ロドリゴ(大学生)、小川裕美(公務員)、橋村青樹(大学生)

2009年度

<p>【日本語ボランティアシンポジウム】 「広げよう、私たちにできること」 『講演』 「だれもが安心して暮らせる社会づくりのために-『識字の暴力』を超えて-」 講師:春原憲一郎((財)海外技術者研修協会(AOTS)日本語教育センター) 『交流タイム・ブース展示』 『分科会』 ①就労支援につながる日本語教育 司会:米勢治子(浜松学院大学) ・厚生労働省日系人就労準備研修について:村上弓子(財)日本国際協力センター中部支所) ・社会人としての人材育成:堀永乃((財)浜松国際交流協会) ・地域の人材を生かしたい!自立への支援のあり方:各務眞弓(可児市国際交流協会) ②「日本語学習+α」を提供する仕組み 司会:杉本和之(元岡山大学留学生センター) ・地域行事への参加:小椋好和(扶桑町多文化共生センター日本語教室「おしゃべりカフェ」) ・出前講座で地震防災を伝える:山田慶江子(にほんご教育の「八の会」) ・地域の行事を一緒に作る:土井佳彦(とよた日本語学習支援システム) ③日本語ボランティア育成につながる各教室の取組み 司会:伊藤典子(ことばの会) ・日本語ボランティア入門 早川泰司(刈谷市国際交流協会日本語支援グループ) ・プロジェクトチームによる課題への取組み:板倉和</p>	<p>【日本語ボランティア研修】 4月 お話を聞く会 「外国人の子どもの教育支援を考える~愛知県の外国人児童生徒教育に関する基本的な情報」 講師:築樋博子(愛知県「多文化ソーシャルワーカー養成講座」講師) 5月 交流会 「東海日本語ネットワークの生かし方」 進行:水谷恭之(東海日本語ネットワーク) 6月 講演会 「ふりかえってみよう!『教師』と『コミュニケーション』」 講師:徳井厚子(信州大学) 7月 お話を聞く会『やさしい日本語』の考え方と『日本語これだけ!』 講師:庵功雄(一橋大学留学生センター)、森篤嗣(国立国語研究所)、岩田一成(広島市立大学国際学部) 9月 お話を聞く会 「外国人と日本社会をつなぐ支援のあり方-ボランティアの心構えと役割-」 講師:石河久美子(日本福祉大学) 10月 お話を聞く会 「日本語ボランティア教室で役に立つ文法とは?-『初めて日本語を教える人のためのなっとく知っとく 初級文型50』を通して-」 講師:澤田幸子((財)海外技術者研修会 関西研修センター) 2月 お話を聞く会 「日本語と一緒に生活情報を学ぼう-場面別日本語テキスト作成の試み-」 講師:北村広美(多文化共生センターひょうご) 3月 お話を聞く会 「『は』と『が』について」 講師:杉本和之(元岡山大学国際センター教授)</p>
---	--

<p>子(NIC 日本語の会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語ボランティアレベルアップ研修:山田規康(東海市国際交流協会) ・日本語力の向上をめざして-大学との連携による研修講座の開設-:柴田熙(江南市国際交流協会) ④学習者から相談を受けたら?~外国人が抱える問題とその対応~ ・「生活・こころ・教育相談の事例から」:吉田あさ子(名古屋国際センター) ・多文化ソーシャルワーカー:大久保忠(愛知県国際交流協会) 	<p>【研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本語ボランティアセミナー「若者のための日本語ボランティア入門」(12月) <ul style="list-style-type: none"> 主催:名古屋大学留学生センター、TNN、AIA、NIC パネリスト:杉浦由佳(大学生)、池田敬子(大学生)、加藤万律子(大学生)、古泉裕美子(大学生)、横溝クリスティーナ(大学生)、小野田美紀(NPO法人「外国人就労センター」) ○シニアのための日本語ボランティア理解講座(全6回、1月~2月) 主催:TNN、AIA
2010年度	
<p>【日本語ボランティアシンポジウム】</p> <p>「共に学ぼう!お隣は外国人」</p> <p>《講演》「お隣の外国人と共に学ぶ-公正な社会統合のために-」</p> <p>講師:西原鈴子(元東京女子大学教授、文化審議会会长)</p> <p>《交流タイム・ブース展示》</p> <p>《パネルディスカッション①》</p> <p>「日本語の識字」</p> <p>コーディネーター:米勢治子(TNN)</p> <p>コメンテーター:新矢麻紀子(大阪産業大学)</p> <p>橋口千尋(ことばの会)、坂手豊美(かすがいふれい教室)、</p> <p>長谷川宏子(かすがいふれい教室)、</p> <p>古賀恵美(とよた日本語学習支援システム)</p> <p>《パネルディスカッション②》</p> <p>「外国にルーツをもつ子どもへの日本語教育」</p> <p>コーディネーター:松本一子(TNN)</p> <p>小川裕美(ばら教室 KANI)</p> <p>川口祐有子(NPO まなびや@KYUBAN)</p> <p>松永鉄彦(名古屋市港明中学校)</p>	<p>【日本語ボランティア研修】</p> <p>4月 お話を聞く会「人と人との架け橋を願って-『こんにちは、にほんご! すぐに使える暮らしのかんたん表現』の作り方-」</p> <p>講師:青柳方子(てくてく日本語教師会)</p> <p>5月 お話を聞く会「日本におけるフィリピン人女性と子どもの現状について」 講師:後藤美樹(フィリピン人移住者センター(FMC)事務局)</p> <p>6月 交流会「『対話中心の活動』の勧め」</p> <p>講師:米勢治子(東海日本語ネットワーク)</p> <p>7月 お話を聞く会「子どもと若者、地域が求める多文化共生のための教材作成『考えよう!共に生きる浜松の未来』『多文化なわたし、あなた、みんな』」</p> <p>講師:松岡真理恵(浜松国際交流協会)</p> <p>9月 お話を聞く会「運用力重視の初級テキスト『J.BRIDGE』とその使い方」</p> <p>講師:小山悟(九州大学留学生センター)</p> <p>10月 お話を聞く会「地域日本語教室のための支援者と学習者をつなぐために」</p> <p>講師:宿谷和子(にほんごの会、星美学園短期大学)</p> <p>1月 番外編「フィリピン北部の日本人先駆者、(二度忘れられた)そして私のルーツ」 講師:アンディ・パクシ・大久保(北ルソンフィリピン日本財団元副団長)</p> <p>2月 お話を聞く会「ネットワーク再考-次世代ネット</p>

過去の活動一覧

<p>【研修】</p> <p>○シニアのための日本語ボランティア理解講座(全5回、1月～2月) 主催:TNN、AIA</p>	<p>ワークの構築に向けて-」 講師:土井佳彦(多文化共生リソースセンター東海) 3月 お話を聞く会「にほんごコミュニケーション再チェック！」 講師:御館 久里恵(鳥取大学国際交流センター)</p>
2011年度	
<p>【日本語ボランティアシンポジウム】</p> <p>「日本で生きていく！」 《基調講演》 「海外における移民の言語政策-共通言語構築をめざして-」 講師:松岡洋子(岩手大学) 《交流タイム・ブース展示》 《パネルディスカッション①》 「ことばを学んで、見えること」 コーディネーター:藤森優(保見ヶ丘国際交流センター) 林泉(ことばの会)、 朴珠媛(愛知韓国学校講師)、 ゴラップ・カリタ(かすがいふれいあい教室)、 アリボノン・デフェナヨン・リュック(NIC 日本語の会) 《アトラクション》 ジェンベ演奏 《パネルディスカッション②》 「『外国人』ではなく、同じ住民として」 コーディネーター:近藤公彦(名古屋国際センター) 水井健次(前鈴鹿市教育長)、 松本里美((特活)シェイクハズ)、 安藤桂子(かすがいふれあい教室)</p>	<p>【日本語ボランティア研修】</p> <p>4月 お話を聞く会「『日本語初級 大地』を体験してみよう！」 講師:山崎佳子(『日本語初級 大地』共著者) 5月 お話を聞く会「『大人のネットワーク』は『子どものセーフティネット』-外国人児童生徒受け入れハンドブックの作成-」 講師:土屋千尋(帝京大学) 6月 交流会「いろいろな日本語教室を見学して…報告と意見交換会」 進行:安藤桂子(東海日本語ネットワーク) 7月 お話を聞く会「『対話中心の活動』のつくり方」 講師:米勢治子(東海日本語ネットワーク) 9月 お話を聞く会「わかりやすい発音を身につけるには-毎日練習！リズムで身につく日本語の発音』を後いた発音指導-」 講師:赤木浩文(専修大学国際交流センター) 10月 お話を聞く会「活動に活かそう！簡単なイラストの描き方」 講師:近藤理加、加藤寿子、渡辺富紀子(くすのき日本語教室) 2月 お話を聞く会「サキップ・ミグランテ・ジャパンの支援活動-被災地のフィリピン人住民の復興に向けて-」 講師:ネストール・プロ(SAGIP Migrante Japan) 3月 お話を聞く会「とりあえず日本語で～もしも…あなたが外国人と『日本語で話す』としたら」 講師:荒川洋平(東京外国語大学留学生日本語教育センター)</p>
<p>【研修】 シニアのための日本語ボランティア理解講座(全5回、1月～2月) 主催:TNN、AIA</p>	
2012年度	
<p>【日本語ボランティアシンポジウム】</p> <p>「二つの言語の間で育つ子どもたち-日本で子育てる親に伝えたいこと-」 《基調講演》 「『定住1.5世代』のコトバと学力をどう伸ばすか-必要な継承語教育と親への啓蒙活動-」 講師:中島和子(カナダ・トロント大学名誉教授)</p>	<p>【日本語ボランティア研修】</p> <p>4月 お話を聞く会「『おしゃべり型』で日本語学習」 講師:蒔田雅子(愛知産業大学) 5月 お話を聞く会「新しい在留資格制度を理解するために」 講師:宮崎真(弁護士) 6月 交流会「『やさしい日本語』を考える～身の回りの日本語情報をどう伝える」</p>

<p>«交流タイム・ブース展示»</p> <p>«報告»「私が選んだ言語」 ウェンドリング・ユミ・川崎(自治体嘱託職員ポルトガル語通訳)</p> <p>«パネルディスカッション» 「就学前からの子ども支援の取り組みとその重要性」 コーディネーター:松本一子(TNN) ・西尾市のプレスクールプログラム-5年目をむかえて、成果と課題-」川上貴美恵(西尾市多文化子育て支援事業外国人児童コーディネーター) ・ひとつの絵本を母語と日本語で-RAINBOWの活動からわかること 石原弘子(「にほんごの会クレヨン」「多言語絵本の会RAINBOW」主宰) ・初期適応支援教室「いっぽ」から広がる松阪市教育委員会の取り組み 岡本美矢子(元松阪市教育委員会人権まなび課指導主事、小学校教諭)</p>	<p>進行:米勢治子(東海日本語ネットワーク)</p> <p>7月 お話を聞く会「年少者日本語支援に関わって～プラスエデュケートの取り組み」講師:一海顕子(NPO法人プラス・エデュケート)</p> <p>9月 お話を聞く会「『やさしい日本語』を教室活動に-防災をテーマとして-」講師:杉本篤子(「やさしい日本語」有志の会)</p> <p>10月 お話を聞く会「地域の日本語学習者と支援者が共に楽しく学習するために」 講師:宿谷和子(にほんごの会)</p> <p>2月 お話を聞く会「日本から戻った日系人たち」 講師:上江州清((財)日伯協会)</p> <p>3月 お話を聞く会「学び手にとって意味のある日本語学習の場を創る-子どもたちへの内容重視の日本語教育を例に-」 講師:斎藤ひろみ(東京学芸大学)</p>
---	---

【研修】シニアのための日本語ボランティア理解講座(全5回、1月～2月) 主催:TNN、AIA

2013年度

<p>【日本語ボランティアシンポジウム】</p> <p>「日本語ボランティア 現在・過去・未来」</p> <p>«基調講演»</p> <p>「地域日本語教育の20年とこれからの日本語ボランティアネットワーク」 講師:尾崎明人(名古屋外国語大学)</p> <p>«交流タイム・ブース展示»</p> <p>«報告»</p> <p>「愛知県地域日本語教育アンケート中間発表」 報告者:土井佳彦((特活)多文化共生リソースセンター東海)</p> <p>«座談会»</p> <p>「地域日本語教室のあり方と日本語ボランティアネットワークの役割」 コーディネーター:稻葉哲朗(NIC) 尾崎明人(名古屋外国語大学、TNN会報委員)、 栗木梨衣(AIA)、 鈴木勝代(ことばの会、TNN代表)、 松本一子(愛知淑徳大学、TNN会報委員)、 米勢治子(愛知県立大学、TNN副代表)</p>	<p>【日本語ボランティア研修】</p> <p>4月 お話を聞く会「就学前の子どもにとっての言語・文化の多様性」 講師:星三和子(名古屋芸術大学人間発達学部)</p> <p>5月 お話を聞く会「初級でこそ活動型を!」 講師:金龍男(早稲田大学日本語教育センター)</p> <p>6月 交流会「日本語教室を充実させる10のこと!」 進行:米勢治子(TNN)</p> <p>7月 お話を聞く会「『語学』は『吾』を語るもの!～自分の思い、気持ちを滲ませた日本語は『外国語以上』～」 講師:席夏蓮(日本語詩集『ネバーランド』著者)</p> <p>9月 お話を聞く会「漢字授業の作り方～漢字を楽しく効果的に教えるために～」 講師:鈴木英子(公益財団法人宮城県国際化協会)</p> <p>10月 お話を聞く会「おススメ!参加型手法～国際理解教育教材を活用した場のつくり方～」 講師:栗木梨衣、大竹美樹(AIA)</p> <p>1月 お話を聞く会「『標準的なカリキュラム案』って、なに?」講師:米勢治子(TNN)</p> <p>2月 お話を聞く会「『生活者としての外国人』のための日本語能力評価って何?」 講師:村上京子(名古屋大学)</p> <p>3月 お話を聞く会「文化庁『指導力評価』チェックシートって、どう使う?」</p>
--	--

	講師:山下隆史(文化庁)、鈴木勝代(TNN)
2014 年度	
<p>【日本語ボランティアシンポジウム】 「日本語教室って、だれのため？ 何のため？」 《パネルディスカッション①》 「地域とつながる教室活動—文化庁「「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案」を活用した実践」 コーディネーター:米勢治子(TNN) 北村祐人(名古屋大学)、磯村美保子(名古屋YWC) A)、甲村博美(愛知県国際交流協会)、松本里美(シェイクハンド)、河村八千代(フロンティアとよはし) 《交流タイム・ブース展示》 《ポスター発表》 パネルディスカッション①の5団体及び文化庁によるポスター発表 《報告》 「愛知県地域日本語教育アンケート結果報告」 報告者:土井佳彦((特活)多文化共生リソースセンター東海) 《パネルディスカッション②》 「地域日本語教室と行政の役割～「多文化共生」の実現に向けて」 コーディネーター:衣川隆生(名古屋大学) 篠橋謙(愛知県国際課多文化共生室)、吉見昌久(名古屋市国際交流課)、多治比寛(兵庫県国際交流協会)、山下隆史(文化庁国語課)</p>	<p>【日本語ボランティア研修】 4月 お話を聞く会「シャドーイングによる効果的な発音指導の方法」講師:大久保雅子(早稲田大学日本語教育研究センター) 5月 お話を聞く会「外国につながる子どもに対する就学前の支援 プレスクールの取組」 講師:近藤 公彦(愛知県地域振興部国際課多文化共生推進室) 6月 交流会「どうしていますか？ 日本語ゼロレベルの教室活動」 進行:米勢 治子(東海日本語ネットワーク) 7月 お話を聞く会「在留資格と外国人の暮らし」 講師:大坂 恵子(弁護士) 9月 お話を聞く会「シラバスを再考する」 講師:ヤン・ジョンヨン(群馬県立女子大学地域日本語教育センター講師) 10月 お話を聞く会「社会生活のいろいろな場面で上手にコミュニケーションできる力につけるためには」 講師:清水崇文(上智大学) 1月 お話を聞く会「音が出る、にわとり式漢字カード」 講師:丹羽典子(NPOにわとりの会) 2月 お話を聞く会「テーマ別発信型日本語クラス」 講師:萬浪絵里(千葉市国際交流協会コーディネーター・日本語教師) 3月 お話を聞く会「イスラームとは？—基礎知識とムスリムについて—」 講師:赤尾奈美ニムラ(NPO子どもと女性のイスラームの会)</p>
<p>【AIA 文化庁委託事業再委託事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本語ボランティア理解講座(全 5 回) ○リソースルーム祭(全 6 回) ○しゃべろまい会(全 11 回) ○『「使える」日本語を学ぶ！～行動・体験型の教室活動をつくろう～』冊子の作成 	
2015 年度	
<p>【日本語ボランティアシンポジウム】 「多文化のなかの子ども支援—親への支援は子どもの支援に、子どもの支援は親への支援に」 《パネルディスカッション①》 「子育て中の親への支援で私たちにできること」</p>	<p>【日本語ボランティア研修】 4月 お話を聞く会「学習者の発話を引き出すヒント～『できる日本語』を例として～」 講師:嶋田和子(アクラス日本語教育研究所代表理事、日本語教育学会副会長)</p>

<p>コーディネーター:酒井美賀(TNN) 黒田あい(名古屋市中保健所 保健予防課) 江口由希子(名古屋市中保健所「外国人ママの子育て教室マミーズ★クラス」) 和田貴子(公益財団法人名古屋YWCA「外国人子育てサポート教室バンビーナ」) 森かおる(東海市国際交流協会「こどもといっしょに日本語教室」) 長尾晴香(国際交流NGO Viva おかげさき！！) コメンテーター:加藤理絵(NIC) 《交流タイム・ブース展示》 《パネルディスカッション②》 「子どもたちのために私たちができること」 コーディネーター:川口祐有子(NPOまなびや@KYUBAN) カラビアス アーリン(NPO法人可児市国際交流協会「さつき教室」)・支援者:湯浅美礼(NPO法人可児市国際交流協会「さつき教室」) 岡村愛花(刈谷東高等学校昼間定時制3年)・支援者:伊東淨江(NPO法人トルシーダ) 阿部エリカ(名古屋市立港明中学校2年)・支援者:伊部真美(名古屋市立浦里小学校) </p>	<p>5月 お話を聞く会「あいち地域日本語教室ハンドブック『つなげる ひろがる』の使い方～作成を通して見た日本語教室の可能性～」講師:伊東淨江(NPO法人トルシーダ代表、あいち地域日本語教室ハンドブック企画・編集) 6月 交流会「東海日本語ネットワーク(TNN)30周年に向けて～今、わたしたちが望むこと～」 進行:土井佳彦(東海日本語ネットワーク) 7月 お話を聞く会「フィリピンの言語と人～日系フィリピンの子どもと親を理解する～」講師:西村直美(豊橋市教育委員会 外国人児童生徒教育相談員) 9月 お話を聞く会「地域日本語教室で楽しく「読み書き」の活動を～『日本語 読み書きのたね』を使って～」 講師:澤田幸子(一般財団法人 海外産業人材育成協会(HIDA)日本語講師) 10月 お話を聞く会「外国につながりを持つ学齢超過生の進学支援」講師:上村桂恵子(公益財団法人名古屋YWCA「ガリ勉クラブ」チーフコーディネーター) 11月 お話を聞く会【in 豊橋】「『みんなの日本語 初級』の使い方～地域日本語教室での交流型活動を考える～」講師:澤田幸子(一般財団法人 海外産業人材育成協会(HIDA)日本語講師) 1月 お話を聞く会「ネパール事情と在日ネパール人」講師:ジギヤン・クマール・タパ(Jigyan Kumar Thapa)(公益財団法人かながわ国際交流財団、ネパール政府公式通訳者) 2月 お話を聞く会「在日外国人と在留資格」 講師:榎原豊久(榎原行政書士事務所、行政書士) 3月 お話を聞く会「地域日本語教室で活かせる日本語能力評価～とよた日本語能力判定を参考に～」 講師:入江友理(名古屋大学 とよた日本語学習支援システム) </p>
---	--

2016年度

<p>【日本語ボランティアシンポジウム】 「つながろう！日本語教室を越えて」 《交流会／ブース発表》 「知り合おう！伝え合おう！私たちの活動」 《基調講演》 「学習者は地域と世界をつなぐ～日本語教室の可能性～」 講師:春原憲一朗(公益財団法人京都日本語教育センター京都日本語学校校長) </p>	<p>【日本語ボランティア研修】 4月 お話を聞く会「楽しく、わかりやすく、役に立つ初級の授業作り～『イラスト満載！ 日本語教師のための活動アイディアブック』を使って～」 講師:小山悟(九州大学 留学生センター 准教授) 5月 お話を聞く会「みんな集まれ！「多文化グローバル子育て教室」～保育園との連携による保護者へのアプローチ～」講師:鈴木ゆみ(一般社団法人 磐田国際交流協会 事務局スタッフ) </p>
---	--

<p>«パネルディスカッション» 「つなぐってドキドキ・つながるってワクワク」 コーディネーター:土井 佳彦(東海日本語ネットワーク) ・散在地域の日本語学習充実のために～近隣市町の日本語教室等との連携:松本 里美(NPO 法人シェイクハンド) ・文化を超えて子育てでつながる仲間づくり～保育園との連携を中心に:鈴木 ゆみ(一般社団法人磐田国際交流協会) ・防災力アップのために～日本語教室と地域の防災団体をつなぐ:丹下 厚史(公益財団法人名古屋国際センター) コメンテーター:春原 憲一郎 </p>	6月 交流会「みんなで考えよう！ TNNの“活かし方”～あんなこといいな できたらいいな♪～」 ファシリテーター:土井佳彦(東海日本語ネットワーク) 7月 お話を聞く会「ベトナム人技能実習生とのまちづくり」 講師:北井康弘(地域多文化ネット WKY) 9月 お話を聞く会「『まるごと』日本のことばと文化～相互理解のための日本語をめざして～」 講師:二瓶知子(国際交流基金 日本語国際センター) 10月 お話を聞く会「漢字クラスの実践(文化庁事業での取り組み)」 講師:松本晃・齋藤輝幸(NPO 法人 シェイクハンド) 11月 お話を聞く会【in 豊田】「『みんなの日本語 初級』の使い方～地域日本語教室での交流型活動を考える～」 講師:澤田幸子(一般財団法人海外産業人材育成協会《HIDA》日本語講師) 1月 お話を聞く会「多文化共生と日本語教室をつなぐ～Viva おかげ！！活動報告～」 講師:長尾晴香(Viva おかげ！！) 2月 お話を聞く会「外国人とともに考える防災と災害時支援～多文化防災ネットワーク愛知・名古屋(TABO ネット)～」 講師:葛冬梅(多文化防災ネットワーク愛知・名古屋《TABO ネット》) 3月 お話を聞く会「外国人技能実習生と私たち～制度とデータと日本語と～」 講師:黒羽千佳子(公益財団法人 国際研修協力機構《JITCO》)
---	---

2017年度

<p>【日本語ボランティアシンポジウム】 「わからない日本語、つかってない？～外国人に伝わる「やさしい日本語」を考えよう」 《午前の部:交流会／ブース発表》 「知り合おう！伝え合おう！私たちの活動」 《午後の部》 「やさしい日本語」を考えよう コントでつづる「やさしい日本語」 司会:米勢治子(東海日本語ネットワーク) コメンテーター:岩田一成(聖心女子大学准教授) 1. どう伝える？ 災害情報の「やさしい日本語」 ファシリテーター:佐原恵津子(国際子ども学校) 2. 上から目線では?…役所の窓口で 3. どうしたらいいの?…地域コミュニティで 4. 説明のことばが難しい!…日本語教室で(1) </p>	<p>【日本語ボランティア研修】 4月 お話を聞く会「新しい基礎日本語教育の内容と方法—NEJを活用した教育の実践—」 講師:西口光一(大阪大学国際教育交流センター 教授) 5月 お話を聞く会「やさしい日本語で地域が変わる」 講師:吉開章(電通／やさしい日本語ツーリズム研究会事務局長) 6月 交流会「つながっているからできること～みんなで考えよう！ 教室活動とネットワーク～」 ファシリテーター:酒井美賀(東海日本語ネットワーク) 7月 お話を聞く会「いっしょに考えよう！ これからの日本語教室～ 愛知県の日本語教育施策を参考に～」 講師:大橋充人(愛知県多文化共生推進室室長補) </p>
---	--

<p>5. 敬語はやめて!…日本語教室で(2)</p> <p>6. 方言ってどうなの?…日本語教室で(3)</p> <p>2～6コント出演:川口徹(名古屋国際センター)、玉城エリカ(まなびや@Kyuban)、朝熊ノリ子(豊田市立西保見小学校放課後学習支援パラソル)、土井佳彦(多文化共生リソースセンター東海)、コスター・ジョン・リカルド(フリーランス通訳)、浜原弘也(TNN)、キム・ナム・ウン(特定非営利活動法人名古屋ろう国際センター)、松本一子(TNN)、酒井美賀(TNN)、鈴木勝代(ことばの会)、コント演出:椿佳代(災害ボランティアコーディネーターなごや)、演出助手:貝谷京子(多文化防災ネットワーク愛知・名古屋)、川口祐有子(多文化防災ネットワーク愛知・名古屋)、臼井尹保(可児市防災の会)、山田美砂子(NIC 日本語の会)、加藤理絵(名古屋国際センター)、ナレーション:佐原恵津子</p> <p>7. 「わたし」が変われば、社会が変わる 報告:土井佳彦</p> <p>《総括》 講師:岩田一成(聖心女子大学 文学部 准教授)</p>	<p>佐ノ地域日本語教育コーディネーター)</p> <p>9月 お話を聞く会「自己表現とライフプランドキュメンタリー映画「Journey to be Continued(続きゆく旅)」」 講師:各務眞弓(NPO法人可児市国際交流協会事務局長)</p> <p>10月 お話を聞く会「ポートフォリオと学習記録簿」 講師:青木直子(大阪大学教授)・奥優伽子(神戸定住外国人支援センター)</p> <p>1月 お話を聞く会「発達障がいがある外国につながる子どもとその家族に対する支援—子どもの得意を活かした学び方—」 講師:清長豊(NPO法人アジャスト代表理事/療育指導員・療育コンサルタント)</p> <p>2月 お話を聞く会「日本語ボランティアってなに?—これまでの歩みから考える—」 講師:松井孝浩(横浜市国際交流協会、鶴見国際交流ラウンジ館長)</p> <p>3月 お話を聞く会「日本語能力試験N3合格のための語彙指導—『新完全マスター語彙日本語能力試験N3』を使って—」 講師:黒羽千佳子(公益財団法人 国際研修協力機構《JITCO》)</p>
--	---

東海日本語ネットワーク規約

第1条（名称）

本会は、東海日本語ネットワーク（以下ネットワークという）とする。

第2条（目的） 本会は、日本語を母語としない人の日本語学習及び交流活動を、営利を目的とせずに支援している団体及び個人の相互交流、情報交換を促進することにより個々の日本語学習支援活動の充実を目指すことを目的とする。

第3条（構成） 本会は、東海地域で日本語支援活動を実践している団体及び個人によって構成する。

第4条（活動） 本会は、第2条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- (1) 日本語支援活動に関わる諸団体との連絡及び情報交換
- (2) 日本語支援活動に関する調査・情報・使用の収集
- (3) 日本語支援活動にたずさわる会員の研修
- (4) 日本語支援活動促進を目的とする講演会などの企画・実施
- (5) その他本会の目的を達成するために必要な活動

第5条（経費） 本会の経費は、会員の会費、寄付金等をもってこれにあてる。

第6条（会員） 本会は、次の2種を持って会員とする。

- (1) 正会員：日本語支援活動を実践している団体または個人。正会員として登録されている団体に所属する個人は、その団体とは別に個人会員として登録することができる。
- (2) 賛助会員：ネットワーク活動を賛助するために入会した団体又は個人。

第7条（機関） 本会の円滑な運営をはかるために、次の機関を置く。

- (1) 総会
- (2) 運営協議会
- (3) 各種委員会

第8条（総会） 総会は正会員で構成し、通常年1回開催する。但し、運営協議会の要請に応じて臨時総会を開催することができる。

総会は、次の事項について協議し決定する。

- (1) 本会の活動に関する事項
- (2) 運営協議員（以下協議員という）の選出に関する事項
- (3) その他必要な事項

総会の議事は、出席者の過半数を持って決する。

総会の議決権は、団体、個人を問わず、一員一票とする。

第9条（運営協議会） 本会に運営協議会を設け、第8条第2項（2）にもとづき選出された協議員を持って構成する。

運営協議会は、第2条の目的を達成するために、本会の運営に一切の責任を持つ。

本会に、次の役員を置く。

- (1) 代表：1名
- (2) 副代表：2名
- (3) 事務局長：1名
- (4) 書記：1名

(5) 会計 : 1名

(6) 会計監査 : 1名

役員は、協議員の互選により選出する。

第 10 条（各種委員会） 運営協議会は、第 2 条の目的を達成するために必要に応じて各委員会を置くことができる。

各種委員会に委員長を置く。

第 11 条（役員及び協議員の任期） 役員及び協議員の任期は、1年とする。

役員あるいは協議員が任期途中において辞退するときは、協議会において後任を選任する。

選任された役員あるいは協議員の任期は、前任者の任期を引き継ぐものとする。

役員及び協議員の再選はこれを妨げない。

第 12 条（会費及び会計） 会員は次に定める会費を納入する。

(1) 正会員（年間） 団体 : 5,000 円 個人 : 3,000 円

(2) 賛助会員（一口） 団体 : 5,000 円 個人 : 3,000 円

会費納入後は、いかなる理由があっても返還しない。

本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする

第 13 条（入会及び退会） 正会員及び賛助会員として入会しようとする者は、別に定める入会申込書を提出し、代表の承認を得なければならない。

退会をしようとする者は、代表に退会届を提出する。

第 2 条の目的から逸脱した行為及び活動をしたものは、すみやかに退会しなければならない。

第 14 条（その他） この規約に該当しない項目で、律しきれない課題が生じた場合は運営協議会で決定する。

付則

1. 規約は、1994 年 6 月 4 日より施行する。
2. この規約は、1996 年 6 月 1 日より改正施行する。
3. この規約は、2004 年 6 月 12 日より改正施行する。
4. この規約は、2006 年 6 月 10 日より改正施行する。
5. 公印名称は、『東海日本語ネットワーク代表者之印』とする。
6. この規約は、総会の議決を経なければ変更できない。

日本語シンポジウム2017
わからない日本語、つかってない?
—外国人に伝わる「やさしい日本語」を考えよう—
報告書

東海日本語ネットワーク(TNN)2017年度活動報告

平成30(2018)年3月31日
東海日本語ネットワーク(TNN)
(公財)名古屋国際センター(NIC)
問い合わせ先
東海日本語ネットワーク事務局
<http://tnn.jp.com/>
代表 酒井美賀

公益財団法人愛知県国際交流協会国際交流推進事業費補助事業